

電書連 EPUB 3 制作ガイド

ver.1.1.4

2025/10/24

目次

このガイドについて	3
■目的	3
■概要	3
■ガイドの構成	4
■付録について	5
■別紙について	5
リーディングシステムに期待する動作	6
■文書ファイルの基本	6
■パッケージ文書 (Package Document / OPF ファイル)	7
■ナビゲーション文書 (EPUB Navigation Document)	7
■スタイルシートの基本	8
■文字・テキスト	9
■画像	11
■カバー画像	12
■ページメディアの余白	12
■その他 HTML 要素	12
■その他 CSS の解釈	13
■固定レイアウト	14
■その他	14
■RS による対応を想定する HTML 要素と CSS プロパティ	15
各版元が用意すべきもの	17
■画像やコンテンツ文書のサイズ制限の通知、および対処法	17
■「版元の指示に従う」項目への対応	17
■版元独自の定型ページ用テンプレートやスタイルシート	17
■体裁の簡略化ルール等	17
制作記述の基本項目	19
■最新版の EPUBCheck でエラーの出ないデータを制作すること	19
■基本的なフォルダ構成とファイル名	19
■ファイル仕様	20
■簡易コーディングルール	20
EPUB 構成ファイルのテンプレート一覧	22
A. リフロー型	23
B. 固定レイアウト型	39

書式一覧	48
■形式段落	48
■改行、空白行	48
■縦中横	48
■縦組み時の文字の向き	49
■ルビ	49
■特殊な文字の指定	50
■文字装飾	51
■強調・打ち消し	52
■画像	53
■見出し	55
■インライン要素の位置揃え	56
■行揃え	58
■字下げ・インデント	58
■行や文字の間隔	61
■区切り	63
■リンク	64
■ボックスの扱い	66
■罫線	68
■ブロック要素の位置揃え	70
■同一ファイル内での改ページ	70
■色指定	71
■回り込み	74
デフォルト CSS ファイルについて	75
■スタイルシートの構成	75
■CSS ファイルの運用ルール	75
■定型 class の作成と追加	76
■カスタマイズ	78
■独自 CSS ファイルの作成	79

このガイドについて

■ 目的

本ガイドは、デジタル出版者連盟（電書連、2021年に日本電子書籍出版社協会およびデジタルコミック協議会が合併し、2022年に名称変更）加盟社のための、一般書の EPUB 3 を制作する際のガイドです。

EPUB 3 を制作する際には、いくつかの方法があり、その結果、電書連加盟社が、EPUB 3 の制作を躊躇しているのが現状です。また、リーディングシステム（ビューワー、以下 RS）開発メーカーも、出版社の意向をわかりかねていると思われます。よって、電書連加盟社のためのひとつのガイドとして、EPUB 3 の制作の方向を示すことで、こうした問題を解消するために作成しました。

なお、本ガイドでは特に断りのない限り、EPUB 3 とは 2023 年に W3C 勧告（国際標準規格化）となった EPUB 3.3 を指します。

W3C EPUB 3.3

<https://www.w3.org/TR/epub-33/>

■ 概要

この「電書連 EPUB 3 制作ガイド」は主として組み方向の混在や段組などのないシンプルな体裁の書籍を、リフロー型の電子書籍として記述するための指針として用意されました。ページ内の任意の場所にテキストや画像を配置したり、画像の周囲をテキストが回り込むようなデザイン、凝った見出しのレイアウト等については今回見送っています。

ただし、一部の詩集や図表の多い専門書のような、リフロー型ではまだ再現が難しいレイアウトを読者に提示するための手段のひとつとして、本ガイドでは、簡易な固定レイアウトの記述について触れています。

本ガイドにおけるリフロー型の記述では、RS が対応するのに少し敷居が高いと思われる SVG の利用も見合わせました。そのため、画像のページフィットにはいくつかの制限が存在しています。たとえば、画像の原寸サイズよりも大きく拡大してみせることはできないこと、画像のサイズや位置を細かく制御できないこと、ページフィットさせた画像の周囲に枠線を引いたりできないことなどです。

一方で、一部の RS が内部でリフローと固定レイアウトで処理を切り替えているケースなども踏まえ、固定レイアウト型の記述では、SVG の伸縮機能を利用して、画像ファイルをページのサイズに応じて拡大・縮小表示させる（ページフィットさせる）方法を選択しました。

また、固定レイアウトで問題になりがちなイメージマップ（クリックブルマップ）についても、SVG の手法を用いています。現在、HTML の map 要素による手法では、縮小表示させた画像における座標の扱いが描画エンジンによって異なります。こうした事情も、固定レイアウトに SVG を採用した理由のひとつです。

こうした問題はいずれ解消されることを期待し、今回のガイドでは、最低限の画像配置のみを想定して記述の指針を定めました。しかし現状では、それすら RS により解釈や対応度合いが異なり、同じように表示されない場合が存在します。これは画像表示に限ったことではなく、文字や行に対する指定であっても同様です。

せっかく Web 標準技術を組み合わせられて考えられた EPUB だというのに、ベンダーごとに Web ブラウザによる基礎的な部分の解釈が大きく異なっていた 10 年近く前のような状況がなお続いています。また一般的な Web ブラウザと異なり、電子書籍の RS はその仕様が外部に対してオープンでなかったり、手軽にデータを出し入れし

て動作検証できない場合などもあるため、それらで共通の動作を期待するデータを記述するのに、多くの困難を抱えているのが実情です。

そのため本ガイドでは、**Readium Foundation** が提供している **Readium** の挙動等を参考にしつつ、組版表現の再現に用いる、ごく基本的な指定に対する RS 側の解釈をなるべくシンプルに想定し、記述するという方針をとりました。現状の商用 RS の性能や、解釈の共通項などを踏まえ、本来 EPUB 3 で利用可能とされているものから、さらに大きく絞りこんだ一部機能のみの利用を想定したものとなっています。

また、利用するスタイルシートセットを事前に用意し、基本的にはその範囲内で記述を行うような方法としました。これは、まだ複数 RS 間で利用可能な機能が安定しない現在の状況において、本ガイドで推奨・想定しない CSS プロパティやその使い方が、書籍データ内の指定に無自覚に含まれることを極力防ぐため、および、縦組みページと横組みページで同じ指定書式を利用可能にする、論理方向的な **class** 名を用意するためというのが主な理由です。文書構造そのものは最低限の HTML 要素で表現することとし、**class** 名や **id** 等を駆使して作品構造まで細かく規定するといった構成にはしませんでした。

表示装置により、著者や編集者が意図した表示をさせられない場合があるという状況は、けっして好ましいものではありません。テキストをリフローさせたり、文字サイズを動的に変更させるといった読者の便宜を図る目的に応えるために、ある程度レイアウトが犠牲になるのは、電子書籍の特性や現在の機能の制約上やむを得ないところもあるでしょう。ですが、テキストや画像のセンター位置が RS により異なっていたり、一部の文字の向きが異なっていたり、表示制御の方法が RS ごとに異なっているというのは、それとはまた別の次元の話です。こうした誰の得にもならない不統一は、早期に解消されることを強く望みます。

また今後、よりその存在が重要になってくる、書籍データ制作の助けとなるであろうオーサリングツール類が、無理な回避策などで複雑すぎる記述をせずとも、どの RS でも同じように表示できるソースを安心して出力できるようになることを期待しています。

本ガイドはその機能的な面も含め、まだ商用書籍の満足ゆく電子化を担うのにけっして十分なものとは言い難いかもしれませんが、そうした混乱を収束してゆくための一助となることを願っています。

■ガイドの構成

「リーディングシステムに期待する動作」

まず最初に、本ガイドによる書籍データの記述を行うにあたり、想定する RS の挙動について触れたのが本項です。主に、現在の各商用 RS 間で不統一があり、制作の障害となりがちなもの、また、動作が保証されないと困るような基礎的な部分等について記してあります。

「各版元が用意すべきもの」

本ガイドの範疇外であり、必要に応じて版元が各自で用意しなくてはならないもの等について記されています。

「制作記述の基本項目」

書籍データを記述するにあたっての、前提となる基本的なルール等について記してあります。

「EPUB 構成ファイルのテンプレート一覧」

実際の記述に用いることができる、基本的なページのテンプレート集です。

また、本ガイドでは推奨しないものではありませんが、版元の要望が特に高い「縦組みでのテキスト左右中央配置」について、縦組みと横組みを混在させることができる RS での再現方法の一例と、その制約・限界について記しました。

「書式一覧」

前項のテンプレートをを用いたページ内での、文字装飾や画像挿入等をするための書式と、その利用における簡単な説明です。

なおテンプレートと書式の記述では、XHTML を正しく解釈しない古い HTML ブラウザとの互換用とされる、XHTML 空要素での「終端スラッシュ前の半角空白」は設けませんでした。

「デフォルト CSS ファイルについて」

前項の書式を利用するためにデフォルトで用意されているスタイルシートセットの説明と、その運用ルール、簡易カスタマイズの方法等が記されています。

■付録について

「book-template_YYYY-MM-DD.epub」および「fixedlayout-template_YYYY-MM-DD.epub」

本ガイド中の「EPUB 構成ファイルのテンプレート一覧」の項に記したテンプレートを集めた実際の EPUB ファイルです。必要に応じて書き換えるなどしてご利用ください。

本ガイドでは非推奨とした「縦組みでのテキスト左右中央配置」等は含まれていません。

また、本扉や奥付といった、各版元ごとに含まれる内容や体裁の異なるページについては、それぞれ「本扉」「奥付」とだけ記してあります。

「dpfj-sample_YYYY-MM-DD.epub」

本ガイドに沿って制作した作品サンプルです。機能の確認のために、本来の作品内容とは関係なく、ルビや装飾、位置変更、注釈などの指定がしてあります。すべての機能が含まれているわけではありませんが、実際の制作の参考にしたたり、RS の動作確認などにご利用ください。

「CSS機能一覧_YYYY-MM-DD.pdf」

本ガイドのデフォルトスタイルシートに含まれる class の一覧です。簡単な機能の説明と、利用方法の一例が記してあります。サイズ等の値を含むものは、すべてを記すのではなく、そのパターンだけを記載しました。より詳細な情報は、本ガイドの「書式一覧」の項などをご確認ください。

「文字サイズごとのサブ行字下げ数早見表.xls」

見出しのサブタイトルなど、文字サイズが異なる隣行の特定の位置に文の頭を揃えたいときの参考にお使いください。ここに記したような小数点以下の細かい字下げ指定は、本ガイドのデフォルトスタイルシートには含まれておりません。必要に応じて、CSS ファイルに指定を追記してください。

■別紙について

「参考情報_YYYY-MM-DD.pdf」

本ガイドでは利用を想定しない内容ですが、EPUB の新しい仕様に対する考え方の一例などを示してあります。EPUB に取り入れられたばかりの要素などは、まだ RS での実装例がないこともあり、実際にどのような挙動となるのか不明であることを充分理解した上で、今後の制作における検討の参考としてご一読ください。

「今後のRSに期待する項目_YYYY-MM-DD.pdf」

本ガイドでは利用を想定しない内容ですが、制作を進める上で特に障害となっている部分、また今後の RS の機能追加や EPUB 仕様の更新などの際に、優先して対応を検討していただきたい項目などを記しています。

リーディングシステムに期待する動作

本ガイドでは、リーディングシステム（以下 RS）が、本項に挙げるような動作をするものと想定して電子書籍データを記述する。

なお、本ガイドに準じた電子書籍データであることを RS に解釈させるキーワードとして、パッケージ文書（OPF ファイル）には、以下のメタデータを記載する。

```
<meta property="ebpaj:guide-version">1.1.4</meta>
<meta property="dpfj:guide-version">1.1.4</meta>
※接頭辞の宣言として package 要素内の prefix 属性に「ebpaj: http://www.ebpaj.jp/」および
「dpfj: https://www.dpfj.or.jp/」を記載
```

また、XHTML、CSS、SVG といった出版物リソース（Publication Resource）の解釈と表示については、特筆しないかぎり、Radium Foundation が配布する「Radium Custom Chromium binary for Mac OS X (Radium-Chromium)」上で動作する Radium に準拠するものとする。

本ガイドでは、単に「Radium」と書いたときは、上記の「Radium-Chromium 上で動作する Radium」のことを指すものとする。

以下、パッケージ文書やナビゲーション文書、コンテンツ文書、スタイルシートなど、書籍データを構成する記述ファイル全般を称して、便宜上「文書ファイル」と記す。

■文書ファイルの基本

文字コード

文書ファイルの記述に用いる文字コードは「UTF-8」とする。

BOM の有無を問わず、同様に解釈されるものとする。

※ただし、本ガイドでは、BOM 無しで文書ファイルを保存することを推奨する。

改行コード

文書ファイルにおける改行コードは「CR+LF」「CR」「LF」の、いずれも正しく解釈されるものとする。

ただし、同一ファイル内での混在がある場合はこの限りではない。

※本ガイドでは、文書ファイルの同一ファイル内での改行コードの混在は、避けることを推奨する。

ソース中の空白、改行、コメント等の扱い

文書ファイルの記述ルールとその解釈は、基本的に XHTML に準じる。

ソース中のコメント行は適切に無視、要素中の属性の順番は任意、属性間の 1 つ以上の空白・改行・タブ文字は適切に処理等、Web 標準をサポートした代表的なモダンブラウザと同程度の厳密さと自由度を担保する。

META-INF 内の container.xml

本ガイドでは OPF ファイルが 2 つ以上ある例を記載しないが、2 つ以上の OPF がある場合も、EPUB 3 の仕様に則り適切に処理されるものとする。

■パッケージ文書 (Package Document / OPF ファイル)

ページ進行方向の遵守

コンテンツ文書やスタイルシートに記された「-epub-writing-mode」の指定にかかわらず、書籍データの「ページ進行方向」は、パッケージ文書の spine 要素に記された「page-progression-direction」の方向に従う。

XHTML ファイル内容の進行方向は、各 XHTML ファイルの body 要素に指定された「-epub-writing-mode」に従う。

html 要素に指定された「-epub-writing-mode」は、適切に body 要素に継承されるものとする。

たとえば「page-progression-direction」が「rtl (右から左)」で、XHTML の「-epub-writing-mode」が「horizontal-tb (横組み)」の場合、テキストは画面内で「左から右へ」伸びるように表示されるが、新たなページは「右から左へ」と増えていくことが望まれる。

spine 要素における指定の遵守

spine 要素での指定順を正しく反映するものとする。

itemref 要素における「linear」属性の「yes」「no」指定を反映するものとする。「linear」属性が「yes」のときは、たとえカバーページであれ、勝手に非表示としない。

itemref 要素における「properties」属性の「page-spread-right」「page-spread-left」指定を反映するものとする。

spine 要素に記載がないものは、書籍のページとして表示されないものとする。

廃止要素の利用に依存しない

guide 要素は廃止されたので、本ガイドではこれに依存する機能に対応するための記述はしない。

メタデータ等の扱い

RS に <dc:title> の情報を表示する機能がある場合、必ず RS 内のどこかで、記載内容のすべてが画面に表示されるものと想定する。

RS に <dc:creator> の情報を表示する機能があり、複数の <dc:creator> がある場合、必ず RS 内のどこかで、記載内容のすべてが画面に表示されるものと想定する（複数著作者名の連結時の記号や、役割表記の表示等は、RS に一任するものとする）。

複数の著作者名を一人ずつ分けるか、ひとつの <dc:creator> に全員記載するかは版元の指示に従う。分けて入れる場合、版元は各著作者の「role」の値を必ず指示するものとする。

ファイル id (「unique-identifier」) に用いるコード体系は定めない（版元の指示に従う。特に指示がない場合は uuid を挿入する）。

更新日は特に指示がない場合、後のファイル管理の便宜を考えて、納品予定日とする。

更新日は読者に対して表示されないことが望ましい。

■ナビゲーション文書 (EPUB Navigation Document)

ナビゲーション文書の優先的解釈

ナビゲーション文書と ncx ファイルが同梱されていた場合、ナビゲーション文書を優先的に解釈するものとする。

なお、本ガイドでは、廃止された ncx に依存する機能に対応するための記述はしない。

ナビゲーション文書の表示

ナビゲーション文書の表示のされ方については、RS に一任するものとする。

ナビゲーション文書中にリンク以外の項目を含められるかどうかは、本仕様では想定しない。

■スタイルシートの基本

CSS プロパティの制限と解釈の基準

現時点での各社 RS による CSS 対応状況を鑑みて、制作時の利用を想定する CSS プロパティを必要最低限と思われるものに絞った。また、日本語書籍の表現としてベーシックなものでありながら、RS ごとに解釈が異なり、同一ソースで表示可能な書籍データ制作を困難にしている各要素については、主として Radium の解釈を基準とし、足りない部分は既存 RS による解釈をある程度参考にしつつ、記述方法を定めることとした。想定しないプロパティを利用する際には、各版元が自己責任で、RS での表示やガイド内の他の指定等との調整を図るものとする。

デフォルトスタイルセットの利用

本ガイドでは、基本的なスタイルセットを用意し、主にそのセット内の class を用いて記述することを主眼とする。ただし、本ガイドでは CSS ファイルのカスタマイズを許容しているため、class の新規追加や、既存 class 名の変更、また既存 class が他のプロパティを含むなどの可能性がある。RS は class 名を固定ととらえて、それを頼りにするのではなく、そこで指定された CSS プロパティに適切に対応するものとする。

本ガイドに沿った書籍データで指定される可能性のあるプロパティの種類は、後述の「RS による対応を想定する HTML 要素と CSS プロパティ」を参照のこと。

代替スタイルシートの非利用

ユーザーによる縦組みと横組みの切り替え処理については、RS に一任する。

もしこういった機能を RS が用意するのであれば、以下の 2 点への配慮を期待する。

- ・デフォルトでは、作品データ内で指定された組み方向で表示する。
- ・作品データ内の指定と違う方向に切り替えた際の表示については、著者や制作者の意図にそぐわない場合があることを、RS 内に含まれる機能紹介部分やヘルプなどに明示する。

ユーザーによる組み方向の切り替え処理に対応しないのは、現状では、実際に切り替えて表示させる環境の不足や、制作・監修の指標となるものがないこと、また組み方向によらないデザインの一助となる、論理方向指定等の利用が可能な CSS プロパティがまだ整備されておらず、そのため組み方向の任意の切り替えに 대처するのに非常に困難が伴い、場合によっては新規の書籍をデザインするような労力が必要となることなどが理由である。

「-epub-」接頭辞付き CSS プロパティの優先的解釈

未勧告の CSS3 から先行採用された CSS プロパティでは、原則として「-epub-」接頭辞付きのものが優先的に解釈されるものとする。ただし、現状の RS の仕様や、Webブラウザでの簡易チェックなどへの配慮として、「-epub-」接頭辞が必要なプロパティには「-webkit-」接頭辞も併記する。

※今後増えるであろうベンダーごとに接頭辞を追加しつづけるのは、大変困難な作業となる。また、WebKit の CSS 記述方法や解釈が後日変更になったときに、「-webkit-」を優先的に解釈してしまう RS で不都合が起こらないともかぎらない。CSS ファイル内でどのような順で記載されていたとしても、RS は「-epub-」接頭辞付きプロパティを最優先で解釈することが望ましい。

なお、「-epub-」接頭辞が利用可能なプロパティは、EPUB 3.0.1 仕様中に記載されたものだけである。ブラウザなどで「-webkit-」接頭辞で利用可能なプロパティを、単純に「-epub-」接頭辞に置き換えても意味がないので、利用者は注意すること。

@import ルールの採用

XHTML 側での CSS ファイル指定の記述簡易化・統一化と、CSS の柔軟なカスタマイズ性確保のため、基本的な XHTML テンプレートでは、link 要素で メイン CSS のみを読み込み、@import ルールを用いて、メイン CSS ファイル内部から必要となる各 CSS ファイルを読み込むこととする。ただし、制作者がページによって読み込む CSS ファイルを変更したい場合はこの限りではない（特定ページでのみ、版元別スタイルセットを読み込みたい場合等）。RS は XHTML から複数の CSS ファイルを呼び出すことも可能であるものとする。

@import で読み込まれたファイル内で、さらに @import を用いることは推奨しない。

非搭載フォント指定の適切な無視

フォント指定において、RS が搭載しないフォントの指定は、適切に無視されるものとする。

@font-face で指定したフォントセットについても、RS に搭載されないフォント指定は、同様に無視されるものとする。

html 要素への指定

html 要素には、原則として組み方向と書体の指定しか行わない。

いずれも、適切に body 要素へ継承されるものとする。

RS によるデフォルトスタイルシート指定の上書き

RS の設定したデフォルトスタイルシートは、書籍データ側で上書きできるものとする。

デフォルトスタイルシートの情報は、版元に対して公開されることが望ましい。

■文字・テキスト

文字集合

少なくとも、以下の文字集合をサポートするものとする。

JIS X 0213:2004 (Unicode ではサロゲートペア領域に含まれる文字も含む)

書体

少なくとも、以下の2書体を利用可能とする。

等幅の明朝系フォント

等幅のゴシック系フォント

また、上記書体は以下のように「Generic font families」に割り当てる。

serif : 明朝

sans-serif : ゴシック

フォントサイズが同じ場合、両書体の em サイズは等しいものとする。

全角、半角の違いに関わらず、em サイズは等しいものとする。

スタイルシートで -epub-text-orientation を用い、文字の向きを変更した場合でも、em サイズは不変とする。

両書体の各文字の表示上の幅は、極端に変わらないものとする。

※インデントでの位置あわせ等、縦組みにおける基礎的な組版表現を再現する上で、フォントはプロポーショナルではなく、等幅であることが望ましい。ただし本ガイドでは、横組み時の字下げ等による位置合わせでは、期待するような効果が得られない可能性について注意を喚起する。

縦組み時の文字の向き

Unicode Consortium の提示する、以下の文書に準拠した表示を想定する。

「Unicode® Standard Annex #50 Unicode Vertical Text Layout」
<https://www.unicode.org/reports/tr50/>

縦組み時の文字の向きは、以下の CSS プロパティで変更されるものとして指定する。
 向きの変更が適用される文字は、上記文書の記述に従うものとする。

正立 : `-epub-text-orientation: upright;`
 右90度回転（横転） : `-epub-text-orientation: sideways;`

EPUB 3.0 時点の仕様であった値「`rotate-right`」が横転指定のために用いられている、または「`sideways`」と併記されている場合は、`sideways` と同等の動作をするものとする。

※ただし現状では、半角文字に `upright` を指定したとき、複数の RS で文字のセンター位置が揃わないことが確認されている。そのため本ガイドでは、やむを得ず、`-epub-text-combine` で一部を代用する。
`-epub-text-combine` はその名が示すように「`combine`（結合）」のためのプロパティなので、文字の向きを変更するために用いるのは避けることが望ましい。

また、CSS の `upright` 指定では、「Tr」「Tu」「R」「U」といった既定の向きに関わらず、縦書き用グリフがあればそれを表示することになっているため、組み方向により形が変わりそうな文字には注意が必要である。

縦組み時の vertical-align

画像および正立すべき文字は「CSS Writing Modes Level 3 W3C Recommendation, 10 December 2019」の「4.2 Text Baselines」で「The central baseline」として示された表示（中央揃え）になるものと想定する。

<https://www.w3.org/TR/css-writing-modes-3/#central-baseline>

※なお、小書き文字のように、サイズを小さくした文字を、縦組み行内の左右いずれかに揃えたい場合がある。そのため「`text-top`」「`text-bottom`」の指定が、行の高さなどではなく、親要素の文字のインラインボックスの右辺、左辺（縦組み時）への揃えとして反映されることが望ましい（同一行内に拡大された文字があり、拡張インラインボックスが押し広げられても、指定した文字の位置がずれないことが望まれる）。本ガイドでは、安全のため「`super`」「`sub`」を用いることを推奨するが、これらは行から少し外側にはみ出してしまうため、期待とは多少異なる表示がなされる場合がある。

行間の自動伸張

行間は原則として、書籍データでの指定が変わらないかぎり均等であるものとする。ただし、最終行がページ内に収まらない場合、その行が次ページに送られて後に空白ができるのは、やむを得ず許容する。

同一行内でフォントサイズが大きくなったり、縦中横などで文字が行から溢れ広がる場合、本来は、サイズや幅の変更による影響をある程度見越してデータを制作すべきであるが、リフロー型の書籍では行末折り返し位置を事前に想定できないため、手動での回避が難しい場合がある。そのため行間は極力維持されるのが望ましいが、どうしても隣行の文字やルビ・傍点等と重なってしまうような場合は、行間が自動的に広がるものとする。

禁則

禁則処理については、各社 RS の現状を鑑みて、現時点では RS 次第であるものと想定する。

■ 画像

画像の種類

JPEG、PNG、GIF、WebP が利用可能であるものとする。

また、PNG と GIF は透過画像が利用可能であることが望ましい。

※ WebP 形式は EPUB 3.3 より使用可能となったため、RS 側の対応を期待する。ただし、利用に際しては配信先または RS が対応していることを確認すること。

外字画像

本ガイドの画像縮小指定で、本文テキスト 1 文字分のサイズで表示できるものとする。

画像サイズの限界は特に定めない。

推奨値

画像サイズ : 128px × 128px
 画像形式 : 8bit の透過 PNG
 アンチエイリアス : なし

※背景色をユーザーが自由に変更できる RS への配慮として、背景色を透明にして保存した 8bit PNG を推奨する。ただし、必ずしも RS が透過画像に対応しているとはかぎらないため、本文の背景に色を敷く場合には、同じ背景色を用いた外字画像を利用するほうが安全である。

画像やブロック要素のサイズ指定における、サイズの最大値指定

max-height、max-width の挙動は、現在ブラウザ間でも解釈の差異がある項目のひとつだが、本ガイドに沿った書籍データにおいては、RS は Radium に準拠した表示を行うものとする。

これらは主に、画像のページフィット、および外字画像の挿入に用いられる。

CSS3 以降でページフィットに適した指定が採用され、それが EPUB 仕様に取り入れられるまでは、本ガイドでは Radium での動作に基づいた最大サイズ指定の挙動を前提とする。

画像等の置換要素やブロック要素およびインラインブロック要素がページをまたぐか否かの判断

以下で述べる「要素の表示用サイズ」とは、スタイルシート等で指定されたサイズがあればそれを示すものとする。要素に指定された { max-width: 100%; } 等のサイズの最大値指定は、先に述べたように、Radium 準拠のサイズ解釈を行うものとする。

テキスト行内の要素がテキストの幅より大きく、かつ RS のページ内で「要素が表示される予定のスペース」に、表示すべき要素がおさまりきらないときは、その該当行ごと次ページに送ることとする。

また、インラインかブロックかにかかわらず、RS のページ内で、画像等の「要素が表示される予定のスペース」に、表示すべきその要素がおさまりきらないときは、「要素の表示用サイズ」のうち、ページ進行方向の幅（縦組みであれば横幅）が RS のページ表示領域のページ進行方向の幅と比べて大きい小さいかで、ページをまたぐか否かの判断がなされるものとする。

ページ進行方向の幅と等しいか、その幅より小さい場合

スペースにおさまりきらなかった要素がページをまたがないよう、次ページに要素を表示させる。

※ページフィット用の指定がされている場合は、次ページに送られたあと、ページフィットして表示されるものとする。

このとき、要素のページ進行方向でない側（縦組みなら高さ）には、要素にページフィット用の指定をしていないかぎり、画面の残りスペースより大きな要素が行末方向にはみだしてしまい、表示されずともやむなしとする。

ページ進行方向の幅より大きい場合
そのままページをまたいで表示させる。

縮小画像のユーザー操作による拡大

サイズ指定やページフィット指定など、原寸より縮小されて表示されている画像は、ピンチイン等のユーザー操作により原寸サイズにまで拡大可能であるものとする。

※小さな画面であっても、画像内のテキストなどを読ませたいケースがあるため

■カバー画像

書棚等における代替画像の用意

カバー画像が存在するとはかぎらない（権利処理上の事情等による）ため、RS はカバー画像が存在しないときは、書棚表示用の代替画像を用意するなどして、支障なく動作可能とすることが望ましい。

ファイル名

カバー画像のファイル名は、版元より特に指示がない場合、RS 側のサムネイル表示の速度向上に配慮する目的で、すべて同じ名前（cover.jpg）とする。

■ページメディアの余白

body 要素の余白指定

現状では多くの場合、RS は書籍データ側から制御できない余白を画面内に追加する。
そのため、本ガイドでは、body 要素の margin と padding は 0 をデフォルトとする。

本文表示領域内への、RS による勝手な余白の追加・削除

RS が body 要素内部の利用可能な画面サイズに影響するような、独自の余白を追加することはないものとする。また、書籍データに指定された margin や padding、空白行を、RS が勝手に詰めて表示することはないものとする。

※たとえばファイルの先頭にだけ自動的に消せない余白を追加されたり、指定した余白を恣意的に詰められたりすると、著者や制作者の意図を読者に正しく伝えられなくなる恐れがあるので、絶対にそのようなことが起こらないことが望ましい。

■その他 HTML 要素

空白行のための

日本語書籍における空白行の位置づけや、印刷用データへの再利用、ハンドリングの容易さ等を鑑み、
 だけの行を、空白の 1 行として扱う。
また margin、padding をゼロにした p 要素や div 要素を用いた <p>
</p>、<div>
</div> といった記述も、同様に空白の 1 行として扱う。

ルビ

「<ruby>漢<rt>かん</rt>字<rt>じ</rt></ruby>」の指定（熟語ルビ風指定）が利用可能であるものとする。

ルビと圏点・傍点が同時指定されたときは、ルビが優先されるものとする。

外字画像にもルビの指定が可能であるものとする。

「<rt>ルビ文字列</rt>」で示されるルビ文字列には、以下の表現を含むことができるものとする。

- ・通常のテキストすべて（欧文や数字も含む）
 - ・数値参照、文字参照
 - ・画像外字
 - ・文字の向き指定（-epub-text-orientation）
 - ・縦中横指定（-epub-text-combine および -epub-text-combine-horizontal）
- ※文字の向き指定にも利用するため

ルビ文字列中の色やサイズなど、装飾関連は今回想定しない。

vertical-align の変更（上付・下付など）も、今回は考慮しない。

ページ内リンク（アンカーリンク）

「テキスト」で指定されたリンク（ファイル名は同一ファイル内であれば省略可）をクリックまたはタップなどして辿った場合は、「<要素名 id="アンカー名">」で指定された要素の位置にジャンプするものとする。ファイル名、アンカー名は、実際に使用する際には全角文字や空白文字を使用しないこと。

なお、そのジャンプ先の要素が必ず画面の先頭行位置に表示されるのか、それとも事前に計算されたページ内の配置を変更することなく、単にその要素を含むページを表示するのかは、RS 次第とする。

※スクロールメディアでは前者のほうが自然であったが、ページメディアでは後者のほうが都合が良い場合も考えられる。

nav 要素とリスト系要素

本ガイドでは、ナビゲーション文書以外での nav 要素と、ol、li などのリスト系要素の利用を想定しない。

ナビゲーション文書中では、EPUB Content Documents の記載にあるように、リスト要素にはリスト番号を表示しないこと。

■その他 CSS の解釈

傍線

EPUB 3.0.1 より「-epub-text-underline-position」が採用されたことを踏まえ、body には { -epub-text-underline-position: under left; } を、縦組みではテキストの右線に { text-decoration: underline; } を、左線に { text-decoration: overline; } を指定しておくものとする。

現時点ではまだ「-epub-text-underline-position」が必ず反映されるとはかぎらないため、左線に { text-decoration: underline; -epub-text-underline-position: right; } とは指定しないでおく。{ -epub-text-underline-position: auto; } は、現段階ではまだ利用を想定しない。

text-decoration による線は、ルビや傍点にまで引かれないものとする。

また、縦中横指定と併用したとき、おかしい位置に線が出てしまわないものとする。

今回はいずれも解消されるものと想定して text-decoration を利用する。

なお、CSS2.1 の仕様上、inline-block 要素には text-decoration は効かないことになっているので、CSS ファイル内で inline-block 指定している外字画像や注釈記号などには、傍線が引かれなくてもやむを得ないものとする。

縦中横

{ -epub-text-combine: horizontal; } および { -epub-text-combine-horizontal: all; } は、半角3桁まで縦中横をするものと想定する。

縦中横された文字列は、まとめて1文字扱いされるものとする。

例)

縦中横に指定した傍線 (text-decoration) は、縦組みのときはその外側の横にひとつだけつくものとする。

縦中横に指定した傍点は、縦中横された文字列を 1 文字として、その文字列のまわりひとつにつき、ひとつの点を打つものとする。

縦中横に指定したルビは、縦中横された文字列を 1 文字として、ルビのルールどおり表示されるものとする。

なお、EPUB 3 仕様では、[CSS3WritingModes-20121115] で変更されたプロパティ名を受けて

「-epub-text-combine-horizontal」が新たに採用されているが、勧告候補となった[CSS3WritingModes] (20140320) ではさらにプロパティ名が変更され、以降は「text-combine-upright」となっていることから、縦中横の指定には、当面これまでの「-epub-text-combine」の利用を想定するものとする。RS には、将来的にもこのプロパティへの対応が強く望まれる。さらに「-epub-text-combine-horizontal」が用いられた場合も、正しく縦中横指定と解釈されるものとする。また、これらを利用する際は、今後のブラウザ等での表示確認の便宜も考えて、{ text-combine-upright: all; } も追加で指定しておくことを推奨する。

非表示指定

{ display: none; } は正しく解釈されるものとする。

ただし現時点では、安全を考えて、読者に対して表示されるべきでない要素は初めから書籍データに含めないか、より安全性の高いコメントアウトを用いることを推奨する。

なお、{ visibility: hidden; } は正しくトルアキで解釈されることを期待する。ただし、JavaScript の利用や、マウスオーバーによる表示切り替えなどを想定しない本ガイドでは、どうしても visibility を利用せねばならぬというケースはおそらくないと思われるため、visibility を利用可能とする class を CSS ファイルに含めることは見送った。

■固定レイアウト

固定レイアウトへの対応は、画像のみで構成される作品に限ることとする。

画像のみで構成される固定レイアウトには、SVG ラッピングの手法を採用する。

SVG は XHTML に直接記載する。含むことのできる画像の形式は、リフロー型と同様とする。

イメージマップ（クリックابلマップ）も、SVG 用のものを用いて画像の伸縮に対応する。

カバーページ以外は、必ずページが対になるようにデータを作成する。

カバーページ（作品データ内の 1 枚目のページ）だけは、EPUB Fixed Layout の指定方法により spine itemref 要素にて、properties="rendition:page-spread-center" を指定するので、必ず単体で表示されるものとする。

カバーページには見開き画面の中央に表示される指定をするが、後につづく見開き配置が崩れないのであれば、カバーページが中央に配置されなくとも許容範囲とする。

■その他

スクリプティング

現状の各社 RS の現状を踏まえ、JavaScript の利用は想定しない。

■RS による対応を想定する HTML 要素と CSS プロパティ

【HTML】

ルート要素

html要素

ドキュメントのメタデータ

head要素 / title要素 / link要素 / meta要素 / style要素

セクション

body要素 / h1～h6要素 / nav要素（ナビゲーション文書用にしか想定しない）

コンテンツのグループ化

div要素 / p要素 / hr要素

ol要素（ナビゲーション文書用にしか想定しない） / li要素（ナビゲーション文書用にしか想定しない）

テキストレベルの意味づけ

a要素 / br要素 / ruby要素 / rt要素 / span要素

組込コンテンツ

img要素 / SVG（固定レイアウトにおけるSVGラッピング手法とイメージマップ機能のみ）

【CSS】

値

% / px / em / inherit / #RRGGBB / #RGB / rgb(R,G,B) / 色名（17色） / transparent

セクタ

タイプセクタ「ELEMENT」

ユニバーサルセクタ「*」

クラスセクタ「.class」

複数クラスの同時指定「class="class class class ..."」

複数クラスの組み合わせ指定「.class.class」

IDセクタ「#id」

属性セクタ

[att] / [att="val"] / [att~="val"] / [att|="val"]

結合子

子孫セクタ「A B」 / 子セクタ「A > B」 / 兄弟セクタ（隣接セクタ）「A + B」

グループ化「A, B」

疑似要素

:link / :visited / :active / :hover（※マウス操作可能な RS のみ）

!important 宣言

@ルール

@charset / @font-face / @import / @media

色・背景

color / background（色のみ） / background-color

マージン

margin / margin-top / margin-right / margin-bottom / margin-left

パディング

padding / padding-top / padding-right / padding-bottom / padding-left

ボーダー

border / border-top / border-right / border-bottom / border-left

border-width / border-top-width / border-right-width / border-bottom-width / border-left-width

border-style / border-top-style / border-right-style / border-bottom-style / border-left-style

border-color / border-top-color / border-right-color / border-bottom-color / border-left-color

フォント

font / font-family / font-size / font-style / font-weight / line-height

テキスト

text-align / text-decoration / text-indent / letter-spacing / vertical-align / word-wrap

幅・高さ

width / height / max-width / max-height

表示

display (display: block; / display: inline-block; / display: inline; / display: none;)

ページメディア

page-break-before / page-break-after / page-break-inside

CSS Text Level 3

-epub-line-break / -epub-word-break / -epub-text-align-last

CSS Writing Modes Module Level 3

-epub-writing-mode / -epub-text-orientation / -epub-text-combine

-epub-text-combine-horizontal

CSS Fonts Level 3

@font-face (font-family / font-style / font-weight / src / unicode-range)

CSS Text Decoration Level 3

-epub-text-emphasis / -epub-text-emphasis-color / -epub-text-emphasis-style

-epub-text-underline-position

各版元が用意すべきもの

本ガイドは、あくまでもシンプルな書籍を記述するための指針を記したものにすぎません。

底本やロゴデータなど制作に必要な素材や、納品データの構成やファイル名、その他版元別の細かい制作ルール等は、各自でご用意ください。

ここでは、書籍データの内容記述において、事前準備が必要となりそうなものの例を挙げておきます。

■画像やコンテンツ文書のサイズ制限の通知、および対処法

端末によっては、性能上の制約から、XHTML などのコンテンツ文書や、画像のファイルサイズに上限が設けられている場合があります。必要があれば、各ファイルの上限サイズを提示し、それを超えたときの対処について指示を出すようにしてください。

■「版元の指示に従う」項目への対応

本ガイドで「版元の指示に従う」等としたオプションな項目については、必要があれば各自指示を出してください。

例) 「扉ページはすべて、見開き表示のときは左側にくるように配置すること」

■版元独自の定型ページ用テンプレートやスタイルシート

奥付など、自社作品に共通のテンプレートを用意したい場合は、本ガイドで想定する範囲内の HTML 要素と CSS プロパティを用いて作成してください。

なお、版元別テンプレートやスタイルセットを利用する際は、各自で表示内容をよくご検証ください。

■体裁の簡略化ルール等

紙本から複雑な体裁などの情報を落とすためのルールなどは、各版元で用意してください。

【よく問題になる要素】

- ・画像挿入位置
- ・見出しサイズや書体置き換えなど体裁の簡略化
- ・見出しレベルの設定ルール (<h1> は扉見出し、等)
- ・デザイン性の強い扉や見出し、目次などをどう処理するか (テキストのみにするか画像にするか等)
- ・目次ページや注釈ページにある各項目のノンブルを残すか消すか
- ・字形 (特に人名などの固有名詞)
- ・見開きをどう処理するか
- ・袋とじや折り込みピンナップなどどう処理するか (向きを変えるか等)
- ・平体、長体の処理
- ・同一行内の天ツキ・地ツキ
- ・縦組みで左右中央ができない場合の指定
- ・白ページを活かすかトルか

- ・見出しを次ページに送るための捨て行をトル、または改ページする等の指定
- ・2行中央など難しい指定を活かすか簡略化するか
- ・区切り画像はスキャンして活かすのか、記号などに置き換えるのか
- ・割り注をどう処理するか
- ・裁ち落とし的な処理をどうするか
- ・飾り罫をどこまで活かすか
- ・段組をどう処理するか
- ・テキストの背景画像をどうするか（特に原稿用紙など固定レイアウト前提のもの）
- ・奥付やあとがきなどにある連絡先やアドレスなどをどうするか
- ・広告の処理
- ・「●ページ参照」などの扱い
- ・索引をどうするか

特に文字サイズなどは、本文とのサイズ比が他人にはわかりませんので、正確さを期すのであれば、なるべく個別に指定をしたほうが良いでしょう。

もしサイズ比そのものは変わっても、サイズの大小関係が維持できれば良いというのであれば、事前にそうしたルールを定めておくことを推奨します。

制作記述の基本項目

特に指示がないかぎり、以下のルールに則りデータ制作を行います。

なお、ファイル・フォルダ名やソースの整形ルールについては、あくまでも一定の基準でデータを制作する上での指針にすぎません。制作者ごとの癖が強くと出てしまうと、後で他人が修正等をする際に困難が生じるため、なるべく統一のルールで運用することを推奨します。

特定のオーサリングツールの自動整形を用いるなど、版元から他の指示がある場合はそちらに従ってください。

■最新版の EPUBCheck でエラーの出ないデータを制作すること

W3C/epubcheck · GitHub

<https://github.com/w3c/epubcheck>

■基本的なフォルダ構成とファイル名

```

root フォルダ
├─ mimetype
├─ META-INF フォルダ
│   └─ container.xml
└─ item フォルダ
    ├─ standard.opf
    ├─ navigation-documents.xhtml
    ├─ image フォルダ
    ├─ style フォルダ
    └─ xhtml フォルダ
  
```

- root フォルダ名は版元の指示に従って設定
- ファイル・フォルダ名は原則小文字（META-INF および管理コードなど指示のあるものは除く）
- 素材格納フォルダの名前は、パッケージ文書での <item> 要素にあわせ「item」とする（仕様上は任意）
- 素材はすべて item フォルダ内の指定のフォルダに入れ、他のフォルダやサブフォルダを作らない

画像ファイル	: 「image」フォルダ
CSS ファイル	: 「style」フォルダ
xhtml ファイル	: 「xhtml」フォルダ
- 以下のファイルは改変しない（添付のサンプル同梱のものをそのまま利用）
 - root フォルダ直下にある「mimetype」
 - 「META-INF」フォルダ内の「container.xml」
- 最低限、どの作品にも共通するページと本文部分とで、XHTML 文書のファイル名を分離しておくことを推奨

※注意書き等の差し替え時におけるファイル判別の手間軽減、
画像や解説などの追加・削除によるリンク指定の URL 変更回避といった管理面での事情に配慮

■ ファイル仕様

- ・ 底本で見開きの図版や写真を、左右ページつなぎあわせた 1 枚の画像として作成し、ページフィットさせて挿入

- ・ 底本での改ページごとにファイルを分割して、XHTML 文書を作成
改ページがない作品は 240KB 程度（～ 256KB 未満）で適度に分割
（近くに見出しがある場合はその直前で、ない場合は空行の位置で分割）

- ・ ファイルのタイトルはすべて作品名
XHTML 文書の「<title>～</title>」部分には、そのファイルに含まれる内容のタイトルを挿入します。
複数の章を含む場合など、内容が様でない場合は、各自ルールを決めて指示を出してください。

特に指示がない場合は、作品名を挿入します。

後述するパッケージ文書（OPF ファイル）の作品名情報を利用してください。

メインタイトルと、サブタイトルやシリーズ名との間は、全角アキでつなぎます。

ここに記されたタイトルがどのように利用されるかは、RS 側の機能や考え次第です。

Web ブラウザの場合と同じように、画面のどこかに表示される可能性があります。

読者の目に触れても大丈夫なように、入力された情報に間違いがないか注意してください。

- ・ `epub:type` は、カバーとナビゲーション文書にのみ挿入
EPUB では、ページの役割を示すために、`epub:type` という属性を指定することができます。
ただ、現状でこれらを利用する RS はなく、また `epub:type` を利用した CSS の指定が保証されているわけでもありません。そのため現時点では、将来システムから利用される可能性が高そうな以下の項目だけ、目印代わりに指定しておくこととします。
「`epub:type`」は、その値により適用できる HTML 要素が異なります。下記以外の値を利用するときは、すべてが `body` や `section` に指定できるわけではないことに注意してください。
なお、これらはテンプレートに記した定型ページ用の `class` や、ナビゲーション文書の `id` の前に記述することとします。

カバー画像のページ `<body epub:type="cover" class="p-cover">`

ナビゲーション文書 `<nav epub:type="toc" id="toc">`

ナビゲーション文書に `epub:type="toc"` が指定された `<nav>` が存在しないと EPUBCheck でエラーが出ますので、必ず指定するようにしてください。

■ 簡易コーディングルール

- ・ 文字コードは UTF-8N（BOM 無し）を推奨
- ・ 改行コードを同一ファイル内で混在させない
- ・ 本ガイドで触れていない HTML 要素や CSS プロパティの利用は非推奨
- ・ 版元指定外のコメントは挿入しない

- ・論理方向の表記を `class` 名に採用

`class` や `CSS` では縦組みと横組みで上下左右が変わってしまうため、行内では主に以下の表記を用います。

行頭	: <code>start</code>	(縦: <code>top</code>	横: <code>left</code>)
行末	: <code>end</code>	(縦: <code>bottom</code>	横: <code>right</code>)
行の前方	: <code>before</code>	(縦: <code>right</code>	横: <code>top</code>)
行の後方	: <code>after</code>	(縦: <code>left</code>	横: <code>bottom</code>)

ただし、ページ全体の設定では、画像のみのページがほぼ常に横組みとなってしまうことを踏まえ、`top` / `right` / `bottom` / `left` を用いても構いません。

なお今回の `CSS` 中では、行頭行末方向の中央を `center` と考え、`class` 名を設定しています。
また便宜的に、ページ進行方向（行前後方向）の中央を `middle` としています。

- ・本文内での要素中の属性記載順は「`epub:type` → `class` → `id` → `src` / `href` → `alt`」
- ・煩雑になるのを避けるため、`<p>` には極力 `class` を指定しない
- ・本文用 XHTML 文書中の HTML 要素直後の改行
`<div>` などのブロックレベル的な要素では、必ず開始タグと閉じタグの直前直後にそれぞれ改行コードを入れるようにします。
 ただし、`<p>` と見出しの `<h1>～<h6>` については、開始タグの直後および閉じタグの直前には改行コードを入れないようにします。

例)

× `<h1>`
 テキスト
`</h1>`
`<div><p>テキスト</p></div>`

○ `<h1>テキスト</h1>`
`<div>`
`<p>テキスト</p>`
`</div>`

インライン的な要素（`` など）では原則、改行しないようにします。

`<a>` の場合は、`<a>` がブロックレベル的な要素（`<p>` も含む）か `` を囲むのでないかぎり、改行コードは入れないようにします。

いずれも、もし要素の入れ子が増えすぎて対応関係がわからなくなるようなら、無理に既存の `class` を用いるのではなく、専用の `class` を用意することをご検討ください。

なお「特定キャラの台詞の書体や色を一括で変更したい」「手紙文として字下げした箇所を、すべて囲み罫に変更したい」など、後からスタイルを修正・変更する可能性がある部分では、同一要素内で複数 `class` を指定するより、専用の `class` を定義したほうが良い場合もあります。必要があれば、`CSS` ファイルのカスタマイズ領域を利用して、新規 `class` を作成してください。スタイルシートのカスタマイズについては、後述の「デフォルト `CSS` ファイルについて」の項を参照のこと。

EPUB 構成ファイルのテンプレート一覧

■テンプレートとファイル名規則

特に指示がないかぎり、以下のテンプレートとファイル名規則を用いることとする
ここにあげたもの以外のテンプレートやファイル名規則が必要な場合は、各版元が責任をもって適切に設定すること

■ソースの整形

ソース中の改行やインデント、要素内の属性順等、ソースの整形に関しては、各版元の指示に従うこと
特に指示がないかぎり、以下のテンプレートに準じた整形を行う

A. リフロー型

設定系の必須ファイル

■テンプレート中の色分けについて

- 灰色：すべての作品で共通の部分（原則、変更しない）
- 青色：すべての作品の共通部分中で、作品ごとに変更する部分
- 赤色：そのテンプレートを利用する作品に特有の、注意すべき部分（原則、変更しない）
- 黒色：定型ではない部分（作品、版元により異なる）

■mimetype

[filename: mimetype]

```
-----[sample code]-----
application/epub+zip
-----
```

■META-INF 内の container.xml

[filename: container.xml]

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0"?>
<container
  version="1.0"
  xmlns="urn:oasis:names:tc:opendocument:xmlns:container"
>
<rootfiles>
<rootfile
  full-path="item/standard.opf"
  media-type="application/oebps-package+xml"
/>
</rootfiles>
</container>
-----
```

■ナビゲーション文書

[filename: navigation-documents.xhtml]

[備考]

- ・リンク項目やリストの階層構造は作品内容により変更
- ・版元から特に指示がないかぎり、カバーページ、目次ページ、奥付ページへのリンクのみとする
- ・ナビゲーション文書中にリンク以外の項目を含められるかどうかは、本仕様ではサポートしない
- ・ナビゲーション文書の表示のされ方については、RS に一任するものとする

・ナビゲーション文書を本文内の目次ページとしても表示させる場合は、後述する本文ページなどの例を参考に、スタイルシートの指定等を挿入すること

-----[sample code]-----

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>Navigation</title>
</head>
<body>
<nav epub:type="toc" id="toc">
<h1>Navigation</h1>
<ol>
<li><a href="xhtml/p-cover.xhtml">表紙</a></li>
<li><a href="xhtml/p-toc.xhtml">目次</a></li>
<li><a href="xhtml/p-colophon.xhtml">奥付</a></li>
</ol>
</nav>
</body>
</html>
```

■OPF ファイル

[filename: standard.opf]

[備考]

- ・RS に <dc:title> の情報を表示する機能がある場合、必ず RS 内のどこかで、記載内容のすべてが画面に表示されるものと想定する
- ・RS に <dc:creator> の情報を表示する機能があり、複数の <dc:creator> がある場合、必ず RS 内のどこかで、記載内容のすべてが画面に表示されるものと想定する
(複数著作者名の連結時の記号や、役割表記の表示等は、RS に一任するものとする)
- ・複数の著作者名を一人ずつ分けるか、ひとつの <dc:creator> に全員記載するかは版元の指示に従う
分けて入れる場合、版元は各著作者の「role」の値を必ず指示すること
- ・ファイル id (「unique-identifier」) に用いるコード体系は定めない
(版元の指示に従うこと。特に指示がない場合は uuid を挿入する)
- ・更新日は特に指示がない場合、後のファイル管理の便宜を考えて、納品予定日とする
- ・更新日は読者に対して表示されないことが望ましい
- ・カバー画像のファイル名は、特に指示がない場合、RS 側のサムネイル表示の速度向上に配慮する目的で、すべて同じ名前 (cover.jpg) とする
- ・横組み作品の場合、<spine> の「page-progression-direction」は「rtl」から「ltr」に変更する

-----[sample code]-----

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<package
  xmlns="http://www.idpf.org/2007/opf"
  version="3.0"
```



```

xml:lang="ja"
unique-identifier="unique-id"
prefix="ebpaj: http://www.ebpaj.jp/
      dpfj: https://www.dpfj.or.jp/"
>

<metadata xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/">

  <!-- 作品名 -->
  <dc:title id="title">作品名 1 </dc:title>

  <!-- 著者名 -->
  <dc:creator id="creator01">著作者名 1 </dc:creator>
  <meta refines="#creator01" property="role" scheme="marc:relators">aut</meta>

  <dc:creator id="creator02">著作者名 2 </dc:creator>
  <meta refines="#creator02" property="role" scheme="marc:relators">aut</meta>

  <!-- 出版社名 -->
  <dc:publisher id="publisher">出版社名 </dc:publisher>

  <!-- 言語 -->
  <dc:language>ja</dc:language>

  <!-- ファイルid -->
  <dc:identifier id="unique-id">urn:uuid:c1215609-6ed3-45be-b0a0-b337d4594597</dc:identifier>

  <!-- 更新日 -->
  <meta property="dcterms:modified">2025-06-01T00:00:00Z</meta>

  <!-- etc. -->
  <meta property="ebpaj:guide-version">1.1.4</meta>
  <meta property="dpfj:guide-version">1.1.4</meta>

</metadata>

<manifest>

  <!-- navigation -->
  <item media-type="application/xhtml+xml" id="toc" href="navigation-documents.xhtml"
  properties="nav"/>

  <!-- style -->
  <item media-type="text/css" id="book-style" href="style/book-style.css"/>
  <item media-type="text/css" id="style-reset" href="style/style-reset.css"/>
  <item media-type="text/css" id="style-standard" href="style/style-standard.css"/>
  <item media-type="text/css" id="style-advance" href="style/style-advance.css"/>
  <item media-type="text/css" id="style-check" href="style/style-check.css"/>

  <!-- image -->
  <item media-type="image/jpeg" id="cover" href="image/cover.jpg" properties="cover-image"/>

```

```

<item media-type="image/png" id="logo-bunko" href="image/logo-bunko.png"/>
<item media-type="image/jpeg" id="kuchie-001" href="image/kuchie-001.jpg"/>
<item media-type="image/jpeg" id="img-001" href="image/img-001.jpg"/>
<item media-type="image/jpeg" id="ad-001" href="image/ad-001.jpg"/>

<!-- xhtml -->
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-cover" href="xhtml/p-cover.xhtml"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-fmatter-001" href="xhtml/p-fmatter-001.xhtml"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-titlepage" href="xhtml/p-titlepage.xhtml"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-caution" href="xhtml/p-caution.xhtml"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-toc" href="xhtml/p-toc.xhtml"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-001" href="xhtml/p-001.xhtml"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-002" href="xhtml/p-002.xhtml"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-003" href="xhtml/p-003.xhtml"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-004" href="xhtml/p-004.xhtml"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-005" href="xhtml/p-005.xhtml"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-colophon" href="xhtml/p-colophon.xhtml"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-ad-001" href="xhtml/p-ad-001.xhtml"/>

</manifest>

<spine page-progression-direction="rtl">

<itemref linear="yes" idref="p-cover" properties="page-spread-left"/>
<itemref linear="yes" idref="p-fmatter-001" properties="page-spread-left"/>
<itemref linear="yes" idref="p-titlepage" properties="page-spread-left"/>
<itemref linear="yes" idref="p-caution" properties="page-spread-left"/>
<itemref linear="yes" idref="p-toc" properties="page-spread-left"/>
<itemref linear="yes" idref="p-001" properties="page-spread-left"/>
<itemref linear="yes" idref="p-002" properties="page-spread-left"/>
<itemref linear="yes" idref="p-003" properties="page-spread-left"/>
<itemref linear="yes" idref="p-004"/>
<itemref linear="yes" idref="p-005"/>
<itemref linear="yes" idref="p-colophon" properties="page-spread-left"/>
<itemref linear="yes" idref="p-ad-001"/>

</spine>

</package>
-----

```

XHTML文書ファイル

■テンプレート中の色分けについて

- 灰色：すべてのページまたは作品で共通の部分（原則、変更しない）
- 青色：すべてのページの共通部分中で、作品ごと、ページごとに変更する部分
- 赤色：そのテンプレートを利用するページに特有の、注意すべき部分（原則、変更しない）
- 黒色：定型ではない部分（ページ内容や作品、版元により異なる）
- 緑色の□：全角空白を示す

■組み方向について

各ページの `<html>` には、次に記す組み方向が指定されている

`class="hltr"`：横組み 組み方向 h (Horizontal) 進行方向 ltr (Left To Right)
`class="vrtl"`：縦組み 組み方向 v (Vertical) 進行方向 rtl (Right To Left)

- ※CSS3 にある「縦組みの ltr」は、現時点ではサポートを想定しない
- ※画像のみのページでは、画像の左右中央を実現するため、横組みを用いている

■カバーページ

[filename: p-cover.xhtml]

[備考]

- ・デフォルトは天ツキ左右中央揃え
- ・画像表示の指定以外は記載しないこと
- ・カバー画像が存在するとはかぎらない（権利処理上の事情等による）ため、RS はカバー画像が存在しないときは代替画像を用意するなどして、配信可能とすることが望ましい

-----[sample code]-----

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
  class="hltr"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../../style/book-style.css"/>
</head>
<body epub:type="cover" class="p-cover">
<div class="main">

<p></p>
```

```
</div>
</body>
</html>
```

■前付（この例では口絵）

[filename: p-fmatter-***.xhtml] ※例では「p-fmatter-001.xhtml」

[備考]

- ・カバーページから本扉までの間にあるページを、便宜上すべて前付とする
- ・画像ページとはかぎらない

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
  class="hltr"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../style/book-style.css"/>
</head>
<body class="p-image">
<div class="main">

<p></p>

</div>
</body>
</html>
-----
```

■本扉ページ

[filename: p-titlepage.xhtml]

[備考]

- ・内容や組み方向は、各版元および作品により異なる
（下記内容は class 名等を含め、すべてあくまでも参考用）

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
-----
```

```

    class="hltr"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../../style/book-style.css"/>
</head>
<body class="p-titlepage">
<div class="main">

<div class="book-title">
<div class="book-title-before">
<p>サブタイトル・前</p>
</div>
<div class="book-title-main">
<p>メインタイトル</p>
</div>
<div class="book-title-after">
<p>サブタイトル・後</p>
</div>
</div>

<div class="author">
<p>著者名 1</p>
<p>著者名 2</p>
</div>

<div class="label">
<p class="label-logo"></p>
<p class="label-name">●●文庫</p>
</div>

</div>
</body>
</html>

```

■電子版用の注意書きページ

[filename: p-caution.xhtml]

[備考]

- ・内容や組み方向、挿入位置などは、各版元および作品により異なる
- ・主に「全作品に必ず挿入する、文字サイズなどレイアウト含め定型の注意書き」に用いることを想定しているため、各作品ごとに異なる注意書きに関しては、特に指示がなければ通常の本文ページを利用する

-----[sample code]-----

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"

```

```

    xml:lang="ja"
    class="vrtl"
  >
  <head>
  <meta charset="UTF-8"/>
  <title>作品名</title>
  <link rel="stylesheet" type="text/css" href="../../style/book-style.css"/>
  </head>
  <body class="p-caution">
  <div class="main">

  <p>無断転載を禁ず云々。</p>

  </div>
  </body>
  </html>

```

■ 目次ページ

[filename: p-toc.xhtml]

[備考]

- ・ ナビゲーション文書を作品本体の目次としても表示させる場合には不要
- ・ 内容や組み方向は、作品により異なる
- ・ 特に指示がないかぎり、ジャンプ先には必ず id を入れておくこととする
- ・ 特に指示がないかぎり、ジャンプ先から目次にもどるためのリンクは設定しない
- ・ 見出し要素等に用いる class は固定ではない
(`<h1 class="gfont font-1em30">` のように、直接サイズや書体等の class を指定しても良い)

```

-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
  class="vrtl"
>
  <head>
  <meta charset="UTF-8"/>
  <title>作品名</title>
  <link rel="stylesheet" type="text/css" href="../../style/book-style.css"/>
  </head>
  <body class="p-toc">
  <div class="main">

  <h1 class="mokuji-midashi">□ 目次見出し</h1>
  <p><br/></p>
  <p><br/></p>
  <p><a href="p-001.xhtml#toc-001">目次項目 1</a></p>
  <p>□<a href="p-002.xhtml#toc-002"><span class="font-0em80">目次項目 2</span></a></p>

```

```
<p>□<a href="p-002.xhtml#toc-003"><span class="font-0em80">目次項目 3</span></a></p>
```

```
</div>
</body>
</html>
```

■扉ページ

[filename: p-***.xhtml] ※例では「p-001.xhtml」

[備考]

- ・内容や組み方向は、作品により異なる
- ・目次からのリンクを受ける id の指定位置について（本文ページも同様に）
 - 特に指示がないかぎり、目次項目と同じ文字列の見出し的な要素があれば、そこに id を指定する
 - 見出し的な要素が無い場合（画像のみなど）、もしくは見出しはあるがその直前にも表示すべき内容がある場合は、ジャンプ先の内容を含む直近の <p> や <div> など、CSS で { display: block; } 指定された要素（ブロックレベル要素）に id を添える
- ・ファイル名に「p-001」のような3桁連番を使う場合、3桁を超えたら適時ファイル名を調整すること
- ・見出し要素等に用いる class は固定ではない
 - （<p class="gfont font-1em50"> のように、直接サイズや書体等の class を指定しても良い）

-----[sample code]-----

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
  class="vrtl"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../style/book-style.css"/>
</head>
<body class="p-tobira">
<div class="main">
```

```
<p class="tobira-midashi" id="toc-001">第一章□あいうえおかきくけこさしすせそたちつと</p>
```

```
</div>
</body>
</html>
```

■本文ページ（縦組み）

[filename: p-***.xhtml] ※例では「p-002.xhtml」

[備考]

- ・内容や組み方向は、作品により異なる
- ・見出し要素等に用いる class は固定ではない
(`<h1 class="gfont font-1em30">` のように、直接サイズや書体等の class を指定しても良い)

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
  class="vrt1"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../style/book-style.css"/>
</head>
<body class="p-text">
<div class="main">

<h1 class="oo-midashi" id="toc-002">第一節□あいうえおかきくけこさしすせそたちつと</h1>
<p><br/></p>
<p><br/></p>
<p>□この文章はサンプルです。</p>
<p>「この文章はサンプルです」</p>
<p><br/></p>
<h2 class="ko-midashi" id="toc-003">□□□□第一項</h2>
<p><br/></p>
<p>□この文章はサンプルです。</p>
<p>□この文章はサンプルです。</p>
<p></p>
<p>□この文章はサンプルです。</p>

</div>
</body>
</html>
-----
```

■本文ページ (横組み)

[filename: p-***.xhtml] ※例では「p-003.xhtml」

[備考]

- ・`<html>` の class が変わるだけで、基本は縦組みと同じ
- ・内容や組み方向は、作品により異なる

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
```



```

    xml:lang="ja"
    class="hltr"
  >
  <head>
  <meta charset="UTF-8"/>
  <title>作品名</title>
  <link rel="stylesheet" type="text/css" href="../../style/book-style.css"/>
  </head>
  <body class="p-text">
  <div class="main">

  <p><br/></p>
  <p><br/></p>
  <p>□この文章はサンプルです。</p>
  <p>「この文章はサンプルです」</p>

  </div>
  </body>
  </html>

```

■本文ページ（画像のみ）

[filename: p-***.xhtml] ※例では「p-004.xhtml」

[備考]

- ・内容や組み方向は、作品により異なる
- ・デフォルトは天ツキ左右中央揃え
- ・右寄せで良ければ、<html> の class は縦組み指定でも構わない
- ・画像表示の指定以外は記載しないこと

```

-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
  class="hltr"
>
  <head>
  <meta charset="UTF-8"/>
  <title>作品名</title>
  <link rel="stylesheet" type="text/css" href="../../style/book-style.css"/>
  </head>
  <body class="p-image">
  <div class="main">

  <p></p>

  </div>
  </body>

```

```
</html>
```

■ ページ全体の位置揃えの指定

[filename: p-***.xhtml] ※例では「p-005.xhtml」

[備考]

- ・ テキスト中心のページ、画像のみのページ、いずれも同様
- ・ ページ全体の位置揃え …… <div class="main"> に「class="align-***"」を指定
 - align-justify : 両端揃え (行末のみ行頭揃え、テキスト本文ではこれがデフォルト)
 - align-start : 行頭揃え (画像のみのページは横組みなので、start = 左揃えになることに注意)
 - align-left : 行頭揃え
 - align-center : 行中揃え (縦組み時は天地中央、横組み時は左右中央。画像ページのデフォルト)
 - align-end : 行末揃え
 - align-right : 行末揃え
- ・ 以下は、画像ページ左寄せの例

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
  class="hltr"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../style/book-style.css"/>
</head>
<body class="p-image">
<div class="main align-left">

<p></p>

</div>
</body>
</html>
-----
```

■ 奥付ページ

[filename: p-colophon.xhtml]

[備考]

- ・ 内容や組み方向は、各版元および作品により異なる
(下記内容は class 名等を含め、すべてあくまでも参考用)

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

```

<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
  class="hltr"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../style/book-style.css"/>
</head>
<body class="p-colophon">
<div class="main">

<div class="book-title">
<div class="book-title-before">
<p>サブタイトル・前</p>
</div>
<div class="book-title-main">
<p>メインタイトル</p>
</div>
<div class="book-title-after">
<p>サブタイトル・後</p>
</div>
</div>

<div class="author">
<p>著者名 1</p>
<p>著者名 2</p>
</div>

<div class="label">
<p class="label-logo"></p>
</div>

<div class="release-date">
<p>平成xx年xx月xx日 □発行</p>
</div>

<div class="publisher-data">
<p class="publish-person">発行者 □●●●●●</p>
<p class="publish-company">発行所 □株式会社●●出版</p>
<p class="publish-address">〒000-0000 □東京都●●区●●1-2-3</p>
<p class="publish-url">http://www.***.co.jp/</p>
</div>

<div class="copyright">
<p>(C) author01 20xx</p>
<p>(C) author02 20xx</p>
</div>

```

```

<div class="kotowarigaki">
<p>（奥付中の断り書きがあればここに入る）</p>
</div>

<div class="original-books">
<p>本電子書籍は下記にもとづいて制作しました</p>
<p class="original-first-edition">●●●文庫『底本名』平成xx年xx月xx日初版発行</p>
<p class="original-used-edition">平成xx年xx月xx日第xx版発行</p>
</div>

</div>
</body>
</html>

```

■広告ページ

[filename: p-ad-***.xhtml] ※例では「p-ad-001.xhtml」

[備考]

- ・内容や組み方向は、各版元および作品により異なる
- ・画像ページとはかぎらない

-----[sample code]-----

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
  class="hltr"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../style/book-style.css"/>
</head>
<body class="p-image">
<div class="main">

<p></p>

</div>
</body>
</html>

```

【参考情報】※本ガイド非推奨項目

■縦組み左右中央ページ

[filename: p-***.xhtml]

[備考]

- ・組み方向の混在がサポートされているとはかぎらないので、対象とする RS の性能をよく確認すること
- ・内容がページから溢れると一部が表示されなくなるので、対象とする画面サイズなどをよく確認すること
- ・横組み中に縦組みブロックを入れ子とするため、組み方向が変わるときに上書きされない class の値（特に余白等）に注意すること
- ・天地の margin がゼロになるので、必要に応じて `<div class="main">` の内側にさらに `<div>` を用意して、margin か padding を指定すること（この手法では `<body>` および `<div class="main">` に margin、padding の追記は不可。`.p-text` など `<body>` に指定する class に margin などが指定されているときも期待どおりの表示にはならないので要注意）
- ・テキスト系ページで「`vrtl block-align-center`」を `<body>` ではなく `<div class="main">` に指定したいときは、`<body>` の margin と padding をゼロにしておくこと
- ・左寄せにしたいときは下記の「`block-align-center`」を「`block-align-left (or start)`」に変更する
※横組みページなので「`end = right`」になることに注意
- ・扉（`.p-tobira`）などでも利用方法は同じ
- ・横組みの天地中央指定をしたいときは、下記の「`hltr`」と「`vrtl`」を入れ替えること
その際、main に `width-100per` を指定しないと右寄せとなるので注意
※ベースは縦組みなので、右から左に要素が配置されます

-----[sample code]-----

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
  class="hltr"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../../style/book-style.css"/>
</head>
<body class="p-text">
<div class="main vrtl block-align-center">

<div class="start-2em">                                // ←ページ全体の字下げには、さらに内側に <div> を用意
<p>あいうえおかきくけこさしすせそたちつと</p>
</div>

</div>
</body>
</html>
```

※以下は、画像を左下隅に置く例

[備考]

・地揃えにしたいとき、body 直下の <div class="main"> の高さを 100% に指定しないと WebKit 系では位置がずれるので注意

※横組みにすることは、高さではなく幅を 100% に指定すること

・下の例では、効果を確認しやすいよう、画像を画面天地 50% サイズに縮小表示してある
(「<img class="fit max-height-050per"」部分)

-----[sample code]-----

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
  class="hltr"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../../style/book-style.css"/>
</head>
<body class="p-text">
<div class="main vrtl block-align-left height-100per">

<div class="align-end">      // ←ページ全体の下寄せには、さらに内側に <div> を用意
<p></p>
</div>

</div>
</body>
</html>
```

B. 固定レイアウト型

設定系の必須ファイル

■テンプレート中の色分けについて

灰色：すべての作品で共通の部分（原則、変更しない）

青色：すべての作品の共通部分中で、作品ごとに変更する部分

赤色：そのテンプレートを利用する作品に特有の、注意すべき部分（原則、変更しない）

黒色：定型ではない部分（作品、版元により異なる）

■mimetype

[filename: mimetype]

[備考]

- ・リフロー型と同じ

```
-----[sample code]-----
application/epub+zip
-----
```

■META-INF 内の container.xml

[filename: container.xml]

[備考]

- ・リフロー型と同じ

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0"?>
<container
  version="1.0"
  xmlns="urn:oasis:names:tc:opendocument:xmlns:container"
>
<rootfiles>
<rootfile
  full-path="item/standard.opf"
  media-type="application/oebps-package+xml"
/>
</rootfiles>
</container>
-----
```

■ナビゲーション文書

[filename: navigation-documents.xhtml]

[備考]

- ・基本的にリフロー型と同じ

- ・ファイル名が連番の場合は、適時調整（下記の例では目次が p-001.xhtml）

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>Navigation</title>
</head>
<body>
<nav epub:type="toc" id="toc">
<h1>Navigation</h1>
<ol>
<li><a href="xhtml/p-cover.xhtml">表紙</a></li>
<li><a href="xhtml/p-001.xhtml">目次</a></li>
<li><a href="xhtml/p-colophon.xhtml">奥付</a></li>
</ol>
</nav>
</body>
</html>
-----
```

■OPF ファイル

[filename: standard.opf]

[備考]

- ・リフロー型との違いは以下の点
 - <package> 要素に prefix の行を追加
 - <!-- Fixed-Layout Documents指定 --> 部分に <meta> 要素を2つ追加
 - スタイルシートは fixed-layout-jp.css のみ
 - <spine> 要素の <itemref> で、カバーページに「properties="rendition:page-spread-center"」を追加
 - <spine> 要素の <itemref> で、カバー画像以外は左右ページを必ず対になるよう指定
 - ※その他はリフロー型と同じ
- ・<spine> 要素の <itemref> で、idref の値が重複していると何も表示しなかったり（Readium）、ページがループする（Firefox の EPUBReader）ものなどがあるので、同じ画像を2度以上表示したいときは、念のため画像を呼び出す xhtml ファイルを別に用意することを推奨する（2度目の白画像なら white2.xhtml など）

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<package
  xmlns="http://www.idpf.org/2007/opf"
  version="3.0"
  xml:lang="ja"
  unique-identifier="unique-id"
  prefix="rendition: http://www.idpf.org/vocab/rendition/#
    ebpaj: http://www.ebpaj.jp/
    dpfj: https://www.dpfj.or.jp/"
```



```

>

<metadata xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/">

<!-- 作品名 -->
<dc:title id="title">作品名 1</dc:title>

<!-- 著者名 -->
<dc:creator id="creator01">著作者名 1</dc:creator>
<meta refines="#creator01" property="role" scheme="marc:relators">aut</meta>

<dc:creator id="creator02">著作者名 2</dc:creator>
<meta refines="#creator02" property="role" scheme="marc:relators">aut</meta>

<!-- 出版社名 -->
<dc:publisher id="publisher">出版社名</dc:publisher>

<!-- 言語 -->
<dc:language>ja</dc:language>

<!-- ファイルid -->
<dc:identifier id="unique-id">urn:uuid:78962f36-6855-4455-8c90-ae787e99cc2b</dc:identifier>

<!-- 更新日 -->
<meta property="dcterms:modified">2025-06-01T00:00:00Z</meta>

<!-- Fixed-Layout Documents指定 -->
<meta property="rendition:layout">pre-paginated</meta>
<meta property="rendition:spread">landscape</meta>

<!-- etc. -->
<meta property="ebpaj:guide-version">1.1.4</meta>
<meta property="dpfj:guide-version">1.1.4</meta>

</metadata>

<manifest>

<!-- navigation -->
<item media-type="application/xhtml+xml" id="toc" href="navigation-documents.xhtml"
properties="nav"/>

<!-- style -->
<item media-type="text/css" id="fixed-layout-jp" href="style/fixed-layout-jp.css"/>

<!-- image -->
<item media-type="image/jpeg" id="cover" href="image/cover.jpg" properties="cover-image"/>
<item media-type="image/jpeg" id="i-white" href="image/i-white.jpg"/>
<item media-type="image/jpeg" id="i-001" href="image/i-001.jpg"/>
<item media-type="image/jpeg" id="i-002" href="image/i-002.jpg"/>
<item media-type="image/jpeg" id="i-003" href="image/i-003.jpg"/>
<item media-type="image/jpeg" id="i-004" href="image/i-004.jpg"/>

```

```

<item media-type="image/jpeg" id="i-005" href="image/i-005.jpg"/>
<item media-type="image/jpeg" id="i-colophon" href="image/i-colophon.jpg"/>

<!-- xhtml -->
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-cover" href="xhtml/p-cover.xhtml"
properties="svg"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-white" href="xhtml/p-white.xhtml"
properties="svg"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-001" href="xhtml/p-001.xhtml"
properties="svg"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-002" href="xhtml/p-002.xhtml"
properties="svg"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-003" href="xhtml/p-003.xhtml"
properties="svg"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-004" href="xhtml/p-004.xhtml"
properties="svg"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-005" href="xhtml/p-005.xhtml"
properties="svg"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-colophon" href="xhtml/p-colophon.xhtml"
properties="svg"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-white2" href="xhtml/p-white2.xhtml"
properties="svg"/>

</manifest>

<spine page-progression-direction="rtl">

<itemref linear="yes" idref="p-cover" properties="rendition:page-spread-center"/>
<itemref linear="yes" idref="p-white" properties="page-spread-right"/>
<itemref linear="yes" idref="p-001" properties="page-spread-left"/>
<itemref linear="yes" idref="p-002" properties="page-spread-right"/>
<itemref linear="yes" idref="p-003" properties="page-spread-left"/>
<itemref linear="yes" idref="p-004" properties="page-spread-right"/>
<itemref linear="yes" idref="p-005" properties="page-spread-left"/>
<itemref linear="yes" idref="p-colophon" properties="page-spread-right"/>
<itemref linear="yes" idref="p-white2" properties="page-spread-left"/>

</spine>

</package>

```

全ページ定形サイズの画像を素早くページフィットして表示させるために、OPF ファイルに基準サイズを記載し、SVG 未対応 RS に配慮して fallback を指定する場合があります。

[filename: standard.opf]

[備考]

- package 要素に、固定レイアウト用の prefix の宣言を追加
- <metadata> 要素に、ページ画像の基準サイズ指定を追加
- ページ画像の寸法はすべて同一とし、下記の青で記した部分にその原寸画像の縦と横の px 数を記載
- SVG 未対応 RS に配慮して、<item> の xhtml ファイルに、fallback として対応する画像ファイルを指定

-----[sample code]-----

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<package
  xmlns="http://www.idpf.org/2007/opf"
  version="3.0"
  xml:lang="ja"
  unique-identifier="unique-id"
  prefix="rendition: http://www.idpf.org/vocab/rendition/#
    ebpaj: http://www.ebpaj.jp/
    dpfj: https://www.dpfj.or.jp/
    fixed-layout-jp: http://www.digital-comic.jp/"
>
```

```
<metadata xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/">
```

(※中略)

```
<!-- Fixed-Layout Documents指定 -->
<meta property="rendition:layout">pre-paginated</meta>
<meta property="rendition:spread">landscape</meta>
```

```
<!-- 基準サイズ -->
<meta property="fixed-layout-jp:viewport">width=848, height=1200</meta>
```

```
<!-- etc. -->
<meta property="ebpaj:guide-version">1.1.4</meta>
<meta property="dpfj:guide-version">1.1.4</meta>
```

```
</metadata>
```

```
<manifest>
```

(※中略)

```
<!-- xhtml -->
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-cover" href="xhtml/p-cover.xhtml"
  properties="svg" fallback="cover"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-white" href="xhtml/p-white.xhtml"
  properties="svg" fallback="i-white"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-001" href="xhtml/p-001.xhtml"
  properties="svg" fallback="i-001"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-002" href="xhtml/p-002.xhtml"
  properties="svg" fallback="i-002"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-003" href="xhtml/p-003.xhtml"
  properties="svg" fallback="i-003"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-004" href="xhtml/p-004.xhtml"
  properties="svg" fallback="i-004"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-005" href="xhtml/p-005.xhtml"
  properties="svg" fallback="i-005"/>
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-colophon" href="xhtml/p-colophon.xhtml"
  properties="svg" fallback="i-colophon"/>
```

```
<item media-type="application/xhtml+xml" id="p-white2" href="xhtml/p-white2.xhtml"
properties="svg" fallback="i-white"/>
```

```
</manifest>
```

(※後略)

XHTML文書ファイル

■テンプレート中の色分けについて

灰色：すべてのページまたは作品で共通の部分（原則、変更しない）

青色：すべてのページの共通部分中で、作品ごと、ページごとに変更する部分

赤色：そのテンプレートを利用するページに特有の、注意すべき部分（原則、変更しない）

黒色：定型ではない部分（ページ内容や作品、版元により異なる）

■カバーページ

[filename: p-cover.xhtml]

[備考]

- ・ 下記の青字の3箇所に画像の原寸サイズを記載
- ・ 画像サイズは作品内ですべて統一する。

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../../style/fixed-layout-jp.css"/>
<meta name="viewport" content="width=848, height=1200"/>
</head>
<body epub:type="cover">
<div class="main">

<svg xmlns="http://www.w3.org/2000/svg" version="1.1"
  xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"
  width="100%" height="100%" viewBox="0 0 848 1200">
<image width="848" height="1200" xlink:href="../../image/cover.jpg"/>
</svg>

</div>
</body>
</html>
-----
```

■本文ページ

[filename: p-***.xhtml] ※例では「p-002.xhtml」

[備考]

- ・「epub:type="cover"」が無いこと以外は、カバーページと同じ

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../../style/fixed-layout-jp.css"/>
<meta name="viewport" content="width=848, height=1200"/>
</head>
<body>
<div class="main">

<svg xmlns="http://www.w3.org/2000/svg" version="1.1"
  xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"
  width="100%" height="100%" viewBox="0 0 848 1200">
<image width="848" height="1200" xlink:href="../../image/i-002.jpg"/>
</svg>

</div>
</body>
</html>
-----
```

■本文イメージマップ（クリックابلマップ） ページ

[filename: p-***.xhtml] ※例では「p-001.xhtml」

[備考]

- ・a 要素の xlink:href 属性に、リンク先のファイル名を記載
- ・rect 要素の x と y 属性に、クリック範囲の開始位置（左上）の座標を記載
- ・rect 要素の width と height 属性に、クリック範囲のサイズを記載
- ・現状では未対応の RS やリンクの個数に制限がある RS が存在するため、利用の際は対象とする RS の性能や挙動を事前によく確認すること

```
-----[sample code]-----
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html>
<html
  xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml"
  xmlns:epub="http://www.idpf.org/2007/ops"
  xml:lang="ja"
>
<head>
<meta charset="UTF-8"/>
<title>作品名</title>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="../../style/fixed-layout-jp.css"/>
```

```
<meta name="viewport" content="width=848, height=1200"/>
</head>
<body>
<div class="main">

<svg xmlns="http://www.w3.org/2000/svg" version="1.1"
  xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"
  width="100%" height="100%" viewBox="0 0 848 1200">
<image width="848" height="1200" xlink:href="../image/i-001.jpg"/>
<a xlink:href="p-002.xhtml" target="_top"><rect fill-opacity="0.0" x="476" y="1000" width="300"
height="60"/></a>
<a xlink:href="p-colophon.xhtml" target="_top"><rect fill-opacity="0.0" x="476" y="1075" width="300"
height="60"/></a>
</svg>

</div>
</body>
</html>
```

書式一覧

■形式段落

【備考】

すべての形式段落を `<p></p>` で囲むこととします
 （スタイルシートで `<p>` の `margin` と `padding` は `0` にしてあります）。

【HTML elements】

`<p></p>` : 形式段落

```
-----[sample code]-----
<p>テキスト</p>
<p>テキスト</p>
-----
```

■改行、空白行

【備考】

空白行には、原則 `<p>
</p>` を用います。

【HTML elements】

`<p>
</p>` : 空白行

例) 1行アキ

```
-----[sample code]-----
<p>テキスト</p>
<p><br /></p>
<p>テキスト</p>
-----
```

■縦中横

【備考】

縦中横の指定内部での上付・下付、文字装飾などの指定は想定しません。要画像化。
 書体などの文字装飾を指定するときは、縦中横指定を外側から囲む形で指定してください。

【CSS class】

`class="tcy"` : 1～3 桁まで。4 桁以上は画像化（挿入方法等は外字画像の項参照）

例) 2 桁の縦中横

```
-----[sample code]-----
<span class="tcy">99</span>
-----
```


■縦組み時の文字の向き

【CSS class】

class="sideways" : 横転
 class="upright" : 直立（全角）
 class="upright-1" : 直立（半角）※センターが揃わないため、別指定

例) 横転

```
-----[sample code]-----
10 <span class="sideways">～</span> 20
-----
```

例) 直立（全角）

```
-----[sample code]-----
「<span class="upright">－</span>」（マイナス記号）
-----
```

例) 直立（半角）

```
-----[sample code]-----
この<span class="upright-1">É</span>はフランス語で使われる文字
-----
```

■ルビ

【HTML elements】

<ruby>親文字<rt>ルビ文字列</rt></ruby>

例) グループルビ

```
-----[sample code]-----
<ruby>紫陽花<rt>あじさい</rt></ruby>
-----
```

例) モノルビ

```
-----[sample code]-----
<ruby>月<rt>つき</rt></ruby>
-----
```

例) 熟語ルビ

```
-----[sample code]-----
<ruby>太<rt>たい</rt>陽<rt>よう</rt></ruby>
-----
```

【備考】

- ・長すぎるグループルビは分割

ルビが1行より長い場合、RS によってはテキストが欠けたり、ルビが次行ではなくその行の中で折り返したりすることがあります。

文章のルビで外国語の読みや意味を表現したりする場合には、その長さに注意してください。

またグループルビを指定した単語は、RS によっては分離禁止禁則の対象となってしまう。

そのため、その単語が次行に送られてしまい、前行にはそのぶんアキができるか、または <body> に指定してある両端揃え指定のせいで、行内の全文字間が均等に空いてしまいます。

グループルビのルビ文字列 (<rt>〜</rt>) が長すぎる場合は、画面で確認しながら適度なところでルビを分割し、初校納品時に連絡事項に残しておいてください。

特に指示がない場合、長さや分割位置の判断は制作担当者に委ねます。少しくらいなら、前行の字間があいたり、アキができるのは構わないこととします。

例) 長すぎるルビ

-----[sample code]-----

```
<ruby>未<span class="kuntent">四</span>曾有<span class="kuntent">三</span>一事不<span class="kuntent">レ</span>被<span class="kuntent">二</span>無常吞<span class="kuntent">一</span></span><rt>いまだかつていちじのむじようにのまれざるはあらず</rt></ruby>
```

↓

-----[sample code]-----

```
<ruby>未<span class="kuntent">四</span>曾有<span class="kuntent">三</span><rt>いまだかつて</rt></ruby><ruby>一事不<span class="kuntent">レ</span>被<span class="kuntent">二</span><rt>いちじのむじように</rt></ruby><ruby>無常吞<span class="kuntent">一</span></span><rt>のまれざるはあらず</rt></ruby>
```

■特殊な文字の指定

- ・ 文字参照、数値参照

【備考】

文字参照（文字実体参照）を用いる場合は、XML の仕様で許可された以下5つのみ可とします。
ただし「"」と「'」については、本文中では通常、参照を使わず単なるテキスト文字を利用します。
それ以外は数値参照（数値文字参照）を用いること（「©」等）。

```
& : &amp;
< : &lt;
> : &gt;
" : &quot;
' : &apos;
```

■ 文字装飾

【CSS class】

書体

class="mfont" : 明朝
class="gfont" : ゴシック

文字サイズ（※利用可能な値は CSS ファイルを要確認）

class="font-0em80" : 文字数（em）で指定（この例では 0.8em を指定）
class="font-080per" : 拡大・縮小率（%）で指定（この例では 80% を指定）

太字

class="bold" : 太字
class="font-weight-normal" : 太字解除

斜体

class="italic" : 太字
class="font-style-normal" : 太字解除

例) 書体

```
-----[sample code]-----
<span class="mfont">テキスト</span>
<span class="gfont">テキスト</span>
-----
```

例) 文字サイズ

```
-----[sample code]-----
<span class="font-0em80">テキスト</span>
<span class="font-080per">テキスト</span>
-----
```

例) 太字

```
-----[sample code]-----
<span class="bold">テキスト</span>
-----
```

例) 斜体

```
-----[sample code]-----
<span class="italic">テキスト</span>
-----
```

例) 複数行にまたがる場合の指定

```
-----[sample code]-----
<div class="gfont">
<p>テキスト</p>
<p>テキスト</p>
</div>
-----
```

■強調・打ち消し

・傍点

【CSS class】

class="em-sesame"	: ゴマ点
class="em-sesame-open"	: ゴマ点（白抜き）
class="em-dot"	: ドット
class="em-dot-open"	: ドット（白抜き）
class="em-circle"	: 円
class="em-circle-open"	: 円（白抜き）
class="em-double-circle"	: 二重円
class="em-double-circle-open"	: 二重円（白抜き）
class="em-triangle"	: 三角
class="em-triangle-open"	: 三角（白抜き）

例) ゴマ点

```
-----[sample code]-----
<span class="em-sesame">テキスト</span>
-----
```

・傍線

【CSS class】

class="em-line"	: 縦組み時は右線、横組み時は下線
class="em-line-outside"	: 縦組み時は左線、横組み時は上線

例) 右線／下線

```
-----[sample code]-----
<span class="em-line">テキスト</span>
-----
```

・打ち消し線

【備考】

二重線での打ち消しなどは、外字画像化。

【CSS class】

class="line-through"	: 打ち消し線（一本線）
----------------------	--------------

例)

```
-----[sample code]-----
<span class="line-through">テキスト</span>
-----
```

■ 画像

【備考】

 に class を指定します。

HTML5 の alt ルールに基づいた版元の指定などがないかぎり、「alt=""」は必ず入れておくようにします。

【HTML elements】

```

```

・ 通常画像

例) インライン画像

```
-----[sample code]-----
この文章はサンプルです。
-----
```

・ 外字画像

【備考】

- ・ JIS X 0213:2004 の文字集合にない文字は外字画像化
 - ・ 字形のベースとするフォントなどは、各版元の指示に従う
 - ・ 背景を透明で作成し、8bit PNG で保存した透過 PNG を用いる
- ※読者が背景色を変更できる RS のことを考慮

【CSS class】

```
class="gaiji"      : 縦横 1 文字分の画像      (作成画像サイズ例: 128px×128px)
class="gaiji-line" : 幅が 1 文字分の縦長画像   (作成画像サイズ例: 幅128px×高さナリユキ)
class="gaiji-wide" : 高さが 1 文字分の横長画像 (作成画像サイズ例: 高さ128px×幅ナリユキ)
```

例) 1 文字サイズ

```
-----[sample code]-----
この文章はサンプルです。
-----
```

例) 幅が 1 行分の縦長画像

```
-----[sample code]-----
この文章はサンプルです。
-----
```

例) 高さが 1 文字分の横長画像

```
-----[sample code]-----
この文章はサンプルです。
-----
```

・ 画像のサイズ指定

【備考】

サイズは文字数か、画面に対する比率で指定します。後述の「サイズ」の項も参照のこと。

インライン（行内）表示する画像のサイズは、基本的には文字数で指定してください。
 指定できる文字数の詳細は CSS をご確認ください。
 また、大きな画像を「max-」なしで指定すると、画面からはみ出したり変形したりする場合があります。

【CSS class】

height-*em : 画像の高さを、文字数で指定（例「height-2em50」……高さ 2.5 文字分）
 height-***per : 画像の高さを、画面の高さに対する比率で指定
 （例「height-010per」……高さ 10% 分）
 max-height-*em : 画像の高さの最大値を、文字数で指定
 max-height-***per : 画像の高さの最大値を、画面の高さに対する比率で指定

width-*em : 画像の幅を、文字数で指定
 width-***per : 画像の幅を、画面の幅に対する比率で指定
 max-width-*em : 画像の幅の最大値を、文字数で指定
 max-width-***per : 画像の幅の最大値を、画面の幅に対する比率で指定

max-size-*em : 画像の高さと幅の最大値を、文字数で指定
 max-size-***per : 画像の高さと幅の最大値を、画面の高さと幅に対する比率で指定

※その他、auto、none、0 など、利用可能な値は後述の「■ボックスの扱い」→「サイズ」の項を参照

例) 画像を縮小して行内に表示

```
-----[sample code]-----
この文章はサンプルです。
-----
```

・ページフィット画像

【備考】

画面サイズにあわせて伸縮します。ただし画像が原寸サイズ以上に拡大されることはありません。
 ページフィット画像のサイズ指定では「max-」のついた「%」での最大値指定をしてください。
 文字数でのサイズ指定ではページフィットしません。

【CSS class】

class="fit" : 画像のページフィット指定

例) ページの高さか幅に 100% フィット

```
-----[sample code]-----
<p></p>
-----
```

例) 常にページの高さ 50% サイズで表示

```
-----[sample code]-----
<p></p>
-----
```

例) 常に 20em サイズで表示（ページフィットしない）

```
-----[sample code]-----
<p></p>
-----
```

■見出し

【備考】

特に指示がなければ、見出しのメインタイトル部分には以下の見出し要素を用い、サブタイトルなど隣接する関連行には `<p></p>` を用いることとします。

見出しレベルの設定については、各版元の指示に従ってください。
指示がないときは、見出しレベルの設定は制作者に一任することとします。

書体やサイズ等の装飾指定では、見出し要素を `<div>` と同様のブロック要素として扱います。
ただし見出し要素の中では `<div>` や `<p>` は使えないので注意してください。
行揃えや字下げ、インデントの際は、見出し要素を `<div>` で囲みます。

【HTML elements】

`<h1>～<h6>`

例) 見出しテキストの装飾

```
-----[sample code]-----
<h1 class="gfont font-1em30">第一章</h1>
-----
```

例) 見出しのぶら下がりインデント

```
-----[sample code]-----
<div class="h-indent-4em">
<h1>第一章 見出し</h1>
</div>
-----
```

・見出し用の空 class

【備考】

CSS ファイルには、見出し専用以下に以下の空 class が用意されています。
書体やサイズなど、作品に応じてスタイルを設定することも可能です。
CSS ファイルのカスタマイズ方法は、後述の「デフォルト CSS ファイルについて」を参照してください。

【CSS class】

```
class="mokuji-midashi"
class="tobira-midashi"
class="oo-midashi"
class="naka-midashi"
class="ko-midashi"
```

例) 見出し用クラスを用いた指定

```
-----[sample code]-----
<h1 class="oo-midashi">第一章</h1>
-----
```

・見出し画像

【備考】

見出しが画像化されているときは、単なるインライン画像、またはページフィット画像として扱います。
 画像を見出し要素（<h1>～<h6>）で囲んでも構いません。
 読み上げや検索への配慮として、画像内に記された見出しのテキストを `alt` に挿入してください。

例) 見出し画像の基本形

```
-----[sample code]-----
<p></p>
-----
```

■インライン要素の位置揃え

・ベースラインの変更

【備考】

縦組みでは、`vertical-align` の `baseline` が文字や画像の中央となるのが正しい仕様です。
 「行の上辺・下辺」は RS により解釈が異なる可能性があるので注意してください。

【CSS class】

<code>class="valign-inherit"</code>	: 親要素の <code>vertical-align</code> を継承
<code>class="valign-baseline"</code>	: 子要素のベースラインを、親要素のベースラインと揃えて表示
<code>class="valign-middle"</code>	: 子要素の中央を、親要素の <code>middle</code> ベースラインに揃えて表示
<code>class="valign-top"</code>	: 子要素の上辺を、行の上辺に揃えて表示
<code>class="valign-bottom"</code>	: 子要素の下辺を、行の下辺に揃えて表示
<code>class="valign-text-top"</code>	: 子要素の上辺を、親要素の文字の上辺に揃えて表示
<code>class="valign-text-bottom"</code>	: 子要素の下辺を、親要素の文字の下辺に揃えて表示
<code>class="valign-sub"</code>	: 親要素の下付位置に表示
<code>class="valign-super"</code>	: 親要素の上付位置に表示

例) 文字の中央を、親要素の `middle` ベースライン（小文字「x」の中央の高さ）に揃えて表示

```
-----[sample code]-----
テキストx<span class="valign-middle">X</span>xテキスト
-----
```

・上付文字、下付文字

【備考】

フォントサイズは「`smaller`」に設定されています。
 ※「`class="valign-super"`」「`class="valign-sub"`」は、文字サイズを変更しないので注意

【CSS class】

```
class="super"
class="sub"
```

例) 上付文字（欧文）

```
-----[sample code]-----
3<span class="super">2</span>
-----
```


例) 上付文字 (和文、全角文字)

```
-----[sample code]-----
H<span class="super">2</span>O
-----
```

例) 下付文字 (欧文)

```
-----[sample code]-----
H<span class="sub">2</span>O
-----
```

例) 下付文字 (和文、全角文字)

```
-----[sample code]-----
A<span class="sub">B</span>C
-----
```

・ 訓点 (返り点)

【備考】

Unicode 文字にある小さな訓点用の文字を使うのではなく、通常サイズの文字に指定します。

【CSS class】

```
class="kuntent"
class="kuntent-okuri"
```

例) レ点、一点等 (縦組みのときは、行内の左側に小さく表示)

```
-----[sample code]-----
<span class="kuntent">レ</span>
<span class="kuntent">一</span>
-----
```

例) 送り仮名 (縦組みのときは、行内の右側に小さく表示)

```
-----[sample code]-----
先<span class="kuntent-okuri">ンズレバ</span>即<span class="kuntent-okuri">チ</span>
-----
```

・ 小書き文字

【備考】

縦組み時の「vertical-align」の「text-top」の解釈が RS により異なるため、暫定的に、縦組み時の「vertical-align」を「super」に設定してあります。

【CSS class】

```
class="kogaki"
```

例)

```
-----[sample code]-----
古池や蛙飛<span class="kogaki">ン</span>だる水の音
-----
```

■行揃え

【備考】

整形に関する指示がないかぎり、<div> と </div> の直後では、それぞれ必ずソース上で改行するようにします。

行末が画面端に揃うよう、<body> の text-align を justify にしてあります。

ただ、画面サイズによっては、英単語などのあいだが大きく開いてみっともなく見える場合があります。

基本はママとしますが、もし後から指示があった場合は、その行を align-start にしてください。

【CSS class】

class="align-start" : 行頭揃え（縦組みでは天ツキ、横組みでは左寄せ）

class="align-center" : 行中揃え

class="align-end" : 行末揃え（縦組みでは地ツキ、横組みでは右寄せ）

class="align-justify" : 行頭揃え（行の下端が揃うよう文字間を自動調節）

例) 行末揃え

```
-----[sample code]-----
<div class="align-end">
<p>テキスト</p>
<p>テキスト</p>
</div>
-----
```

例) ジャスティフィケーションの抑止（両端揃えを行頭揃えに変更）

```
-----[sample code]-----
<p>This is a pen.</p>
-----
↓
-----[sample code]-----
<div class="align-start">
<p>This is a pen.</p>
</div>
-----
```

■字下げ・インデント

- ・全角空白を用いた字下げ

【備考】

6文字以上の字下げは、狭い画面での折り返しのことも考慮して、極力 start での指定に置き換えます。

なお、ページフィット画像（class="fit"）は、全角空白では字下げできません。

例) 全角アキで4字下げ ※□……全角アキ

```
-----[sample code]-----
<h1>□□□□見出しテキスト</h1>
<p>□□□□テキスト</p>
<p>□□□□</p>
<p>□□□□</p>
-----
```

・ class 指定による字下げ

【備考】

行頭からの字下げを行います。横組みのときは左から、縦組みのときは天から字下げされます。

原則として <div> の class に「start-*em」と字下げ数を指定します。

なお、CSS では margin を用いて位置を調整しているため、同じ要素内で余白の margin と同時に指定しないこと。

【CSS class】

class="start-*em" ("start-0" も可)

例) 行頭から一括で4字下げ

```
-----[sample code]-----
<div class="start-4em">
<h1>見出しテキスト</h1>
<p>テキスト</p>
<p></p>
<p></p>
</div>
```

例) 字下げの入れ子

```
-----[sample code]-----
<div class="start-4em">
<p>テキスト</p>
<div class="start-2em"> // 全体では6字下げになる
<p>テキスト</p>
</div>
</div>
```

・ 字上げ

【備考】

基本は字下げと同様です。行末からの字上げを行います。

横組みのときは右から、縦組みのときは地から字上げされます。

字下げ同様、同じ要素内で余白の margin と同時に指定しないこと。

【CSS class】

class="end-*em" ("end-0" も可)

例) 行末から4字上げ

```
-----[sample code]-----
<div class="end-4em">
<p>□いろはにほへと、ちりぬるを、わかよたれそ、つねならむ。うみのおくやま、けふこえて、あさきゆめみし、ゑひもせす。</p>
</div>
```

・行頭インデント

【備考】

行頭からのインデントを行います。字下げとの違いは、行の先頭しか下がらないことです。
横組みのときは左から、縦組みのときは天から字下げされます。

【CSS class】

`class="indent-*em"` : 行頭からのインデントを文字数で指定 ("`indent-0`" も可)

例) 一括行頭 1 字下げ

```
-----[sample code]-----
<div class="indent-1em">
<p>テキスト</p>
<p>テキスト</p>
</div>
-----
```

・突き出しインデント（ぶら下がりインデント）

【備考】

画面端で行が折り返したとき、折り返した行の開始位置を指定します。
横組みのときは左から、縦組みのときは天から字下げされます。「`h-`」は「`hanging-`」の略。
ただし、横組みのときは文字の幅次第では正確に位置が揃わない可能性があります。
なお、CSS では `indent` のマイナス値と `padding` を用いて位置を調整しているため、同じ要素内で余白の `padding` と同時に指定しないこと。

【CSS class】

`class="h-indent-*em"` : 折り返した行の開始位置を、行頭からの文字数で指定 ("`h-indent-0`" も可)

例) 折り返した行を、1 行目の 3 文字目と頭を揃えて表示

```
-----[sample code]-----
<div class="h-indent-2em">
<p>男：いろはにほへと、ちりぬるを、わかよたれそ、つねならむ。</p>
<p>女：うめのおくやま、けふこえて、あさきゆめみし、ゑひもせす。</p>
</div>
-----
```

※折り返したとき以下のように表示

男：いろはにほへと、ちりぬるを、わか
よたれそ、つねならむ。
女：うめのおくやま、けふこえて、あさ
きゆめみし、ゑひもせす。

例) 字下げとの併用

```
-----[sample code]-----
<div class="start-2em">
<div class="h-indent-2em">
<p>男：いろはにほへと、ちりぬるを、わかよたれそ、つねならむ。</p>
</div>
</div>
-----
```

または

```
-----[sample code]-----
<div class="start-2em h-indent-2em">
<p>男：いろはにほへと、ちりぬるを、わかよたれそ、つねならむ。</p>
</div>
-----
```

例) 余白 (padding) との併用 ※インデントごと、さらに <div> で囲む

```
-----[sample code]-----
<div class="p-2em">
<div class="h-indent-2em">
<p>男：いろはにほへと、ちりぬるを、わかよたれそ、つねならむ。</p>
</div>
</div>
-----
```

■行や文字の間隔

・行高

【備考】

初期設定は 1.75 です。margin 等で前後行との空白を調整する場合は、行高の値を考慮に入れてください。

文字サイズの変更により、行間も変わります。その際の適切な行間の判断は、指示がないかぎり制作者に一任します。

行間を変えるために、空白や改行の文字サイズを変更するような指定は、原則行わないこととします。

【CSS class】

class="line-height-normal" : 行高を RS のデフォルトに
class="line-height-*em" : 行高を文字数で指定

例) 行高を本文 (1.75) の倍に

```
-----[sample code]-----
<div class="line-height-3em50">
<p>□いろはにほへと、ちりぬるを、わかよたれそ、つねならむ。うみのおくやま、けふこえて、あさきゆめみし、ゑひもせす。</p>
</div>
-----
```

・文字間

【備考】

画像とテキストの間には反映されないことがあるため (代表的なモダンブラウザでは反映されません)、画像や外字画像を含むような箇所での利用は避けることを推奨します。

縦中横を含む文章に文字間の指定をすると、縦中横で結合されたはずの文字のあいだにまで指定が効くことがあります。CSS の仕様では、縦中横を含む文字列に文字間指定された際の挙動が定められていないため、このような状況での利用は、なるべく避けることを推奨します。

なお、この現象を避けるため、縦中横部分に文字間ゼロの指定をすると、今度は縦中横した文字とその下の文字の間での文字間の指定が反映されなくなる場合がありますので注意してください。

【CSS class】

class="lspacing-normal" : 文字間を RS のデフォルトに
 class="lspacing-*em" : 文字間を 文字数で指定 ("lspacing-0" も可)

例) 4 分アキに

```
-----[sample code]-----
<div class="lspacing-0em25">
<p>テキスト</p>
</div>
-----
```

・ 禁則処理のルール

【備考】

現時点では、まだ禁則処理は RS ごとに異なっており、あまり制御できません。
 対象 RS が「-epub-line-break」に対応しているか、ご確認の上ご利用ください。

【CSS class】

class="line-break-auto" : 禁則を RS のデフォルトに
 class="line-break-loose" : ゆるい禁則
 class="line-break-normal" : 標準の禁則
 class="line-break-strict" : 厳しい禁則

例) ゆるい禁則 (ナカグロや三点リーダー、小書きカナなどを禁則しない)

```
-----[sample code]-----
<div class="line-break-loose">
<p>いろはにほへと・ちりぬるを・わかよたれそ・つねならむ・うめのおくやま・けふこえて・あさきゆめみ
し・ゑひもせす</p>
<p>「うわあああああああああ……………っ」</p>
</div>
-----
```

・ 自動改行のルール

【備考】

行末折り返し時の自動改行の指定です。単語の長さに関係しません。
 欧文文字の羅列などが禁則されると困るような場合に用います。

【CSS class】

class="word-break-normal" : 標準のルールで自動改行
 class="word-break-break-all" : 任意の文字の間に自動改行 (長い単語の途中でも行末で折り返し)
 class="word-break-keep-all" : 単語の途中で自動改行しない (空白や句読点位置でのみ折り返し)

例)

```
-----[sample code]-----
<div class="word-break-break-all">
<p>ABCDEFGH IJKLM NOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklm nopqrstuvwxyz</p>
</div>
-----
```

- ・長い単語の改行ルール

【備考】

空白などのない長い欧文文字列は、行末で折り返されず、画面の外にはみ出してしまう場合があります。そのような場合は「word-wrap-break-word」を用います。

なお、本ガイドのデフォルト CSS では、<body> に { word-wrap: break-word; } を指定してあります。

【CSS class】

class="word-wrap-normal" : 標準の改行ルール

class="word-wrap-break-word" : 長い単語のときは、単語中でも行末折り返し時に自動改行

例)

```
-----[sample code]-----
<div class="word-wrap-break-word">
<p>http://abcdefghijklmnopqrstuvwxyz.html</p>
</div>
-----
```

■ 区切り

- ・区切り線

【HTML elements】

<hr/> : 区切り線（横組み時は水平線、縦組み時は垂直線）

例)

```
-----[sample code]-----
<p>テキスト</p>
<hr/>
<p>テキスト</p>
-----
```

- ・区切り記号（通常文字として処理）

【備考】

特に指示がなければ、字下げには全角空白を利用します。

例)

```
-----[sample code]-----
<p>テキスト</p>
<p>□□□□*</p>
<p>テキスト</p>
-----
```

- ・区切り画像（通常画像として処理）

【備考】

特に指示がなければ、画像は原寸で指定、字下げには全角空白を利用します。

例)

```
-----[sample code]-----
<p>テキスト</p>
<p>□□□□</p>
<p>テキスト</p>
-----
```

■ リンク

【備考】

ジャンプ先の要素への id 指定を基本とします。

・ 他ファイル先頭へのリンク

【HTML elements】

リンク元

例) 「p-002.xhtml」の先頭位置へ

```
-----[sample code]-----
<a href="p-002.xhtml">他ファイルへのリンク</a>
-----
```

・ ページ内へのリンク

【HTML elements】

リンク元 : リンク指定側

ジャンプ先 : ジャンプ先側 (または <div> や <p>, <a>, <h1>~<h6> 等に指定)

例) 「id="link-001"」の位置へ

```
-----[sample code]-----
<p><a href="#link-001">内容へのリンク</a></p>

<p id="link-001">内容の本文</p>                                     // 段落の先頭にジャンプ
<p>内容の本文<span id="link-001">リンク先</span>内容の本文</p>    // 段落内の一部にジャンプ
-----
```

・ 他ファイル中の任意の場所へのリンク

【HTML elements】

リンク元 : リンク指定側

ジャンプ先 : ジャンプ先側
(または <div> や <p>, <a>, <h1>~<h6> 等に指定)

例) 「p-002.xhtml」内にある「id="toc-001"」の位置へ

```
-----[sample code]-----
<p><a href="p-002.xhtml#toc-001">見出しへのリンク</a></p>

<h1 id="toc-001">見出し</h1>
```


・相互リンク

【HTML elements】

```
<p><a id="link-001" href="ファイル名#link-002">リンク 1</a></p> : リンク 1
                                     (リンク 2 の位置へジャンプ)
<p><a id="link-002" href="ファイル名#link-001">リンク 2</a></p> : リンク 2
                                     (リンク 1 の位置へジャンプ)
```

・注釈

【備考】

指でタップする際の利便性などを考慮して、注釈記号だけでなく、注釈が指定された単語そのものにリンク指定するようにします。単語の範囲が注釈の受け側を見てもわからない場合は、適切と思われる範囲に指定してください。

【CSS class】

```
class="noteref" : 文字色は青、傍線つきがデフォルト
class="note"    : 文字色は青、傍線つきがデフォルト
class="footnote": 特に指定なし（「footnote」は「脚注」の意）
class="super"   : 上付文字指定（「上付文字、下付文字」の項を参照）
                  ※ここでは注釈記号用として利用
```

【HTML elements】

```
<p><a class="noteref" id="noteref-001" href="ファイル名#note-001">項目<span class="super">＊
</span></a></p>
: 注釈参照側（注釈記号の部分は、class 含め、作品にあわせて自由に指定して構いません）
```

```
<p><a class="note" id="note-001" href="ファイル名#noteref-001">＊項目</a>□テキスト</p>
: 注釈内容側
```

```
<div class="footnote" id="note-001">
<p><a class="note" href="ファイル名#noteref-001">＊項目</a>□テキスト</p>
<p>□テキスト</p>
</div>
: 注釈内容側を <div> で指定したい場合の一例
```

例)

-----[sample code]-----

```
<p><a class="noteref" id="noteref-001" href="p-002.xhtml#note-001">蜘蛛の糸<span class="super">＊
</span></a></p>
```

```
<p><a class="note" id="note-001" href="p-001.xhtml#noteref-001">＊蜘蛛の糸</a>□ドストエフスキイ「カラマゾフ兄弟」第七篇第三「一本の葱」に取材。</p>
```

【参考情報】

注釈を表す「epub:type」を挿入することで、RS がその情報を利用することも可能になります。
RS がどのような利用をするかは EPUB の仕様では定められておらず、その利用方法を指定することもできないため、事前に RS の挙動を確認し、版元とよくご相談の上ご利用ください。

■ ボックスの扱い

・ ボックスの種類

【CSS class】

class="display-none" : 要素を { display: none; } に指定
 class="display-inline" : 要素を { display: inline; } に指定
 class="display-inline-block" : 要素を { display: inline-block; } に指定
 class="display-block" : 要素を { display: block; } に指定

例) テキストの一部を非表示に

```
-----[sample code]-----
<p>あいうえお<span class="display-none">かきくけこ</span>さしすせそ</p>
-----
```

・ 外側の余白（マージン）

【CSS class】

class="m-*"

〔値の詳細〕

m-auto / m-0 / m-***per / m-*em : 四方のマージンを指定 (auto、ゼロ、%指定、文字数指定)

m-top-auto / m-top-0 / m-top-***per / m-top-*em : 画面上部のマージンを指定

m-bottom-auto / m-bottom-0 / m-bottom-***per / m-bottom-*em : 画面下部のマージンを指定

m-right-auto / m-right-0 / m-right-***per / m-right-*em : 画面右部のマージンを指定

m-left-auto / m-left-0 / m-left-***per / m-left-*em : 画面左部のマージンを指定

m-start-auto / m-start-0 / m-start-***per / m-start-*em : 行頭のマージンを指定

m-end-auto / m-end-0 / m-end-***per / m-end-*em : 行末のマージンを指定

m-before-auto / m-before-0 / m-before-***per / m-before-*em : 行前方のマージンを指定

m-after-auto / m-after-0 / m-after-***per / m-after-*em : 行後方のマージンを指定

例) 四方のマージンを2文字分に

```
-----[sample code]-----
<div class="m-2em">
<p>テキスト</p>
</div>
-----
```

例) 左右のマージンを3行分に (行高 1.75 の場合)

```
-----[sample code]-----
<div class="m-right-5em25 m-left-5em25">
<p>テキスト</p>
</div>
-----
```

・内側の余白（パディング）

【CSS class】

class="p-*"

[値の詳細]

p-0 / p-***per / p-*em : 四方のパディングを指定（ゼロ、%指定、文字数指定）

p-top-0 / p-top-***per / p-top-*em : 画面上部のパディングを指定

p-bottom-0 / p-bottom-***per / p-bottom-*em : 画面下部のパディングを指定

p-right-0 / p-right-***per / p-right-*em : 画面右部のパディングを指定

p-left-0 / p-left-***per / p-left-*em : 画面左部のパディングを指定

p-start-0 / p-start-***per / p-start-*em : 行頭のパディングを指定

p-end-0 / p-end-***per / p-end-*em : 行末のパディングを指定

p-before-0 / p-before-***per / p-before-*em : 行前方のパディングを指定

p-after-0 / p-after-***per / p-after-*em : 行後方のパディングを指定

例) 四方のパディングを2文字分に

-----[sample code]-----

```
<div class="p-2em">
```

```
<p>テキスト</p>
```

```
</div>
```

・サイズ

【備考】

高さ、幅といった指定ではなく、行長方向と行幅方向でサイズ指定をするときは、固定値、最大値とも同じ要素内では同時に利用できないので注意してください（組み方向が変わるときに、もう片方のサイズをクリアしなくてはならないため）。縦組みと横組みでの切り替えを目的としない、また縦組みと横組みの混在を考慮しないのであれば、高さと幅でサイズ指定することを推奨します。

※以下のように入れ子とすることで、行長方向と行幅方向の同時指定そのものは可能です。

ただし、行幅方向（ページ進行方向）の最大値指定は、まだ動作を期待せずナリユキとしたほうが無難です。

-----[sample code]-----

```
<div class="measure-10em">
```

```
<div class="extent-5em25">
```

```
<p>内容</p>
```

```
</div>
```

```
</div>
```

【CSS class】

class="height-*"

class="width-*"

class="measure-*"

```

class="extent-*"
class="max-height-*"
class="max-width-*"
class="max-measure-*"
class="max-extent-*"
class="max-size-*"

```

【値の詳細】

```

height-auto / height-***per / height-*em : 高さを指定
width-auto / width-***per / width-*em : 幅を指定
measure-auto / measure-***per / measure-*em : 行長方向のサイズを指定
extent-auto / extent-***per / extent-*em : 行幅方向のサイズを指定
max-height-none / max-height-***per / max-height-*em : 高さを最大値で指定
max-width-none / max-width-***per / max-width-*em : 幅を最大値で指定
max-measure-none / max-measure-***per / max-measure-*em : 行長方向のサイズを最大値で指定
max-extent-none / max-extent-***per / max-extent-*em : 行幅方向のサイズを最大値で指定
max-size-none / max-size-***per / max-size-*em : 高さと同幅を最大値で指定

```

例) 高さ10文字分、幅 5 行分に (行高 1.75 の場合)

-----[sample code]-----

```

<div class="height-10em width-8em75">
<p>テキスト</p>
</div>

```

■ 罫線

・ 囲み罫

【備考】

ページフィット画像に指定すると、線の太さの分だけページから溢れてしまいます。
そのため、ページフィット画像への罫線は、囲み罫含め禁止とします。

【CSS class】

```

class="k-solid" : 実線の囲み罫
class="k-dotted" : 点線の囲み罫
class="k-double" : 二重線の囲み罫
class="k-dashed" : 破線の囲み罫

```

```

class="k-solid-black" : 実線の囲み罫 (黒色)
class="k-solid-gray" : 実線の囲み罫 (灰色)
class="k-solid-silver" : 実線の囲み罫 (銀色)
class="k-solid-white " : 実線の囲み罫 (白色)

```

例) インライン要素への囲み罫

-----[sample code]-----

```

<p>あいいうえお<span class="k-solid">かきくけこ</span>さしすせそ</p>

```

例) ブロック要素への囲み罫

```
-----[sample code]-----
<div class="k-solid">
<p>テキスト</p>
</div>
-----
```

・罫線

【CSS class】

線種

class="k-solid-*" : 実線
class="k-dotted-*" : 点線
class="k-double-*" : 二重
class="k-dashed-*" : 破線

[値の詳細]

※画面上/下/右/左/上下/左右

k-solid-top / k-solid-bottom / k-solid-right / k-solid-left
/ k-solid-topbottom / k-solid-rightleft
k-dotted-top / k-dotted-bottom / k-dotted-right / k-dotted-left
/ k-dotted-topbottom / k-dotted-rightleft
k-double-top / k-double-bottom / k-double-right / k-double-left
/ k-double-topbottom / k-double-rightleft
k-dashed-top / k-dashed-bottom / k-dashed-right / k-dashed-left
/ k-dashed-topbottom / k-dashed-rightleft

※行頭/行末/行前方/行後方/行頭末/行前後

k-solid-start / k-solid-end / k-solid-before / k-solid-after
/ k-solid-startend / k-solid-beforeafter
k-dotted-start / k-dotted-end / k-dotted-before / k-dotted-after
/ k-dotted-startend / k-dotted-beforeafter
k-double-start / k-double-end / k-double-before / k-double-after
/ k-double-startend / k-double-beforeafter
k-dashed-start / k-dashed-end / k-dashed-before / k-dashed-after
/ k-dashed-startend / k-dashed-beforeafter

線幅

class="k-*px" : 0～8px
class="k-thin" : 細線
class="k-medium" : 中線
class="k-thick" : 太線

例) ブロック要素への左右罫線 (4px)

```
-----[sample code]-----
<div class="k-solid-rightleft k-4px">
<p>テキスト</p>
</div>
-----
```

■ブロック要素の位置揃え

【備考】

縦組みでは左右方向、横組みでは上下方向の位置揃えは機能しません。

【CSS class】

```
class="block-align-left"    : 【横組み用】画面の左側
class="block-align-center"  : 【横組み用】画面の左右中央
class="block-align-right"   : 【横組み用】画面の右側

class="block-align-top"     : 【縦組み用】画面の上側
class="block-align-middle"  : 【縦組み用】画面の天地中央
class="block-align-bottom"  : 【縦組み用】画面の下側

class="block-align-start"   : 行頭側
class="block-align-center"  : 行中央
class="block-align-end"     : 行末側
```

例) 囲み罫つき高さ4文字分のボックスを、行末揃えに

```
-----[sample code]-----
<div class="height-4em k-solid block-align-end">
<p>テキスト</p>
</div>
-----
```

■同一ファイル内での改ページ

【備考】

改ページは、端末の処理能力等に配慮する意味もあり、原則としてファイルを替えることで実現します。ファイル数の増加を防ぐためなどの理由で、どうしても同一ファイル内で改ページしたい場合は、以下の指定を用いてください。

ただし、短い随筆やコラム的な文章の連続など、ファイル全体のスタイル指定の変更が不要で、かつ各ページの内容が少ないときに限ります。

なお、現時点では利用できるRSが限られているので、利用の際は対象とするRSの挙動をよく確認するようにしてください。

【CSS class】

```
class="pagebreak"          : 指定したブロックの直後で改ページ
class="pagebreak-before"   : 指定したブロックの直前で改ページ
class="pagebreak-both"     : 指定したブロックの前後で改ページ
```

例) 句集など1ページに1行しかないような場合に、同一ファイル内で改ページ

```
-----[sample code]-----
<div class="pagebreak">
<p>いろはにほへと ちりぬるを</p>
</div>
<div class="pagebreak">
<p>わかよたれそ つねならむ</p>
</div>
-----
```

■色指定

【備考】

他の色で同じような使い方ができるクラスが必要な場合は、CSS に追記します。

詳細は、後述の「デフォルト CSS ファイルについて」を参照してください。。

なお、明るい黄色など一部の色が指定された部分は、モノクロ端末等で見えなくなる可能性があることに留意してください。

・文字色

【CSS class】

※ 1 C 用文字色

```
class="color-black"      : { color: #000000; }
class="color-dimgray"    : { color: #696969; }
class="color-gray"       : { color: #808080; }
class="color-darkgray"   : { color: #a9a9a9; }
class="color-silver"     : { color: #c0c0c0; }
class="color-gainsboro"  : { color: #dcdcdc; }
class="color-white"      : { color: #ffffff; }
class="color-transparent": { color: transparent; }
```

※基本色

```
class="color-red"        : { color: #ff0000; }
class="color-blue"       : { color: #0000ff; }
class="color-cyan"       : { color: #00ffff; }
class="color-magenta"    : { color: #ff00ff; }
class="color-orangered"  : { color: #ff4500; }
```

例)

```
-----[sample code]-----
<p><span class="color-silver">テキスト</span></p>

<div class="color-silver">
<p>テキスト</p>
<p>テキスト</p>
</div>
-----
```

・背景色

【CSS class】

※ 1 C 用背景色

```
class="bg-black"        : { background-color: #000000; }
class="bg-dimgray"      : { background-color: #696969; }
class="bg-gray"         : { background-color: #808080; }
class="bg-darkgray"     : { background-color: #a9a9a9; }
class="bg-silver"       : { background-color: #c0c0c0; }
class="bg-gainsboro"    : { background-color: #dcdcdc; }
class="bg-white"        : { background-color: #ffffff; }
class="bg-transparent"  : { background-color: transparent; }
```

※基本色

```

class="bg-red"      : { background-color: #ff0000; }
class="bg-blue"     : { background-color: #0000ff; }
class="bg-cyan"      : { background-color: #00ffff; }
class="bg-magenta"   : { background-color: #ff00ff; }
class="bg-orangered" : { background-color: #ff4500; }

```

例)

```

-----[sample code]-----
<p><span class="bg-silver">テキスト</span></p>

<div class="bg-silver">
<p>テキスト</p>
<p>テキスト</p>
</div>
-----

```

・ 文字色反転（白黒反転）

【CSS class】

```
class="inverse"
```

例)

```

-----[sample code]-----
<p><span class="inverse">テキスト</span></p>

<div class="inverse">
<p>テキスト</p>
<p>テキスト</p>
</div>
-----

```

・ 罫線色

【CSS class】

※ 1 C 用罫線色

```

class="k-black"      : { border-color: #000000; }
class="k-dimgray"     : { border-color: #696969; }
class="k-gray"        : { border-color: #808080; }
class="k-darkgray"    : { border-color: #a9a9a9; }
class="k-silver"       : { border-color: #c0c0c0; }
class="k-gainsboro"   : { border-color: #dcdcdc; }
class="k-white"        : { border-color: #ffffff; }
class="k-transparent" : { border-color: transparent; }

```

※基本色

```

class="k-red"        : { border-color: #ff0000; }
class="k-blue"       : { border-color: #0000ff; }
class="k-cyan"       : { border-color: #00ffff; }

```



```
class="k-magenta"      : { border-color: #ff00ff; }  
class="k-orangered"    : { border-color: #ff4500; }
```

例) 赤い囲み罫

```
-----[sample code]-----  
<p><span class="k-solid k-red">テキスト</span></p>  
  
<div class="k-solid k-red">  
<p>テキスト</p>  
<p>テキスト</p>  
</div>  
-----
```

・リンク色

【備考】

CSS ファイルの編集によりカスタマイズ可能です。

詳細は、後述の「デフォルト CSS ファイルについて」を参照してください。。

【参考情報】※本ガイドでは非推奨

■回り込み

【備考】

WebKit 系など、clear と併用すると表示が大きく乱れる場合があるので、利用する際は対象 RS の挙動をよく確認すること。

【CSS class】

class="float-none"	: 回り込みなし
class="float-start"	: 行頭方向に回り込み
class="float-end"	: 行末方向に回り込み
class="float-clear"	: 回り込み解除 (clear: both;)
class="float-clear-start"	: 行頭方向の回り込み解除
class="float-clear-end"	: 行末方向の回り込み解除

例) 画像の行末側にテキストを回り込ませる (画像とテキストの間は1文字分アキ)

```
-----[sample code]-----
<p></p>
<p>テキスト</p>
-----
```

例) ブロック要素の行末側にテキストを回り込ませる (要素とテキストの間は1文字分アキ)

```
-----[sample code]-----
<div class="float-start m-end-1em">
<p></p>
<p>キャプション</p>
</div>
<p>テキスト</p>
-----
```

デフォルト CSS ファイルについて

■スタイルシートの構成

【リフロー型】

```
book-style.css      …… XHTML から呼び出すファイル。
                    各 CSS ファイルの読み込みと、RS の仕様やバグ対策、
                    簡単な作品別カスタマイズ用領域を用意

/* @import で以下の CSS ファイルを読み込み */
style-reset.css     …… リセット用スタイルシート
style-standard.css  …… 基本のスタイルセット
style-advance.css   …… 論理方向や組み方向の混在などに対応するためのスタイルセット（除外可）
(style-***.css)     …… 版元別スタイルセット（各社、必要なら用意。表示は自己責任）
(style-check.css)   …… Windows のブラウザ環境で、縦組み時にフォントを立てて
                    画面確認するためのスタイル（納品時には読み込みを解除）
```

【固定レイアウト型】

```
fixed-layout-jp.css …… XHTML ファイルから呼び出すファイル
                    固定レイアウトでは @import がサポートされなくても構わないよう、
                    他のスタイルは利用しない
```

■CSS ファイルの運用ルール

@import での CSS 読み込み

今回は XHTML ファイル側の記述を統一するため、XHTML ファイルからはメインとなる CSS のみを読み込み、他の CSS ファイルはメイン CSS 内から @import で読み込むこととします。

ただし、ページによって読み込む CSS ファイルを変更したい場合は、この限りではありません。

※特定ページのみ版元別スタイルセットを読み込みたい場合等。

デフォルト CSS の改変は原則不可

原則として、事前に用意された CSS ファイルは変更しないものとします。

値の変更が必要なときは「book-style.css」末尾のカスタマイズ領域を使うか、版元別スタイルセットを用意して上書き処理をしてください。

改変・追加は自己責任

本ガイドでは、複雑な指定が必要になるレイアウトを考慮していないので、以下のように CSS 内容そのものを変更する場合には、各自で表示内容に責任を負うこととします。

class に設定された値を変更

class にプロパティを追加

優先順位変更のため、記述位置を移動
 他の `class` と連動している `class` の名前を変更
 新たな `class` を追加
 版元別スタイルセットを追加

独自 CSS ファイルの読み込み順序は、自由に他と入れ替えて構いません。

作品に不要な `class` を削除してファイルを軽くしたり、自動化作業のためコメント行をすべて削除する程度であれば動作に支障はありませんが、その際は本来必要なものまで削除してしまわないよう充分注意してください。

必要なら独自の CSS ファイルをいくつ用意しても構いません。
 ただし一度に読み込むファイルが重くなりすぎると動作に支障を来す可能性もあるため、対象とする RS の性能などを事前によく確認することを推奨します。

id の重複を避ける

id は、本来 各ページ (XHTMLファイル) ごとにユニークであれば構わないものですが、複数ファイルからなる EPUB データの構成を鑑みて、ひとつの作品を通じてユニークな値であるものとします。

■ 定型 class の作成と追加

【概要】

字下げやサイズ指定といった一部のスタイルでは、登録されたものだけでは値が足りない場合が出てくるでしょう。すべてにおいて充分なだけの値を事前登録することは無理なので、デフォルトのスタイルシートセットでは、利用しやすいような値を少しだけ登録してあります。

たとえば、フォントサイズの指定では、最大 300% までしか登録されていません。400% など事前登録のないサイズが必要になったときは、自分でスタイルを登録する必要があります。

登録する数が多くない場合は、book-style.css の「作品別カスタマイズ領域」を利用してください。

定型 class の場合は、既存の class と同じ書式を使い、値のみを変更した class を登録することを推奨します。なるべく後から他の人が見たときに、何のための class かわかるようにしておいてください。

登録する数が多いときや、複数の作品で同じように使いたい class を登録する際は、独自 CSS ファイルを用意して、book-style.css に @import で読み込ませるようにします。

たとえば奥付や、シリーズ共通ページなどのように、定型で使い回すページ専用の class がある場合は、CSS ファイルを別途用意した方が管理しやすいでしょう。

【定型 class の種類】

A. 縦組みでも横組みでも中身を変える必要のない項目

たとえばフォントサイズや色指定などは、縦組みでも横組みでも同じ指定が用いられます。
 以下は、実際に style-standard.css に登録されているフォントサイズ指定です。

```
-----[sample code]-----
.font-1em20 { font-size: 1.20em; }
-----
```

もし、1.25em など、未登録のサイズが必要になったときは、次のように class 名と値の、サイズ数の部分だけ変更したものを新規作成してください。

```
-----[sample code]-----
/* -----
 * 作品別カスタマイズ領域
 * ----- */
.font-1em25 { font-size: 1.25em; }
-----
```

小数点以下の値は、上記のように小数点以下 2 桁まで利用できるものとします。
また、class 名ではドット記号を使うわけにいかないなので、整数値を単位の前に、小数値を単位の後に記すこととします。
ただし、小数値がない場合は、次のように整数値のみの class 名としてあります。

```
-----[sample code]-----
.font-1em { font-size: 1.00em; }
-----
```

なお、パーセント表記による class の場合は、以下のように 3 桁で揃えた class 名を用います。

```
-----[sample code]-----
.font-085per { font-size: 85%; }
-----
```

B. 縦組みと横組みで中身を変える必要がある項目

たとえば、ぶら下がりインデントの指定では、縦組みのときは上からの padding、横組みのときは左からの padding を利用することで、常に同じ class 名で行頭からのインデントが行われるようになっています。

以下は、実際に style-standard.css に登録されているぶらさがりインデント指定です。

```
-----[sample code]-----
.hltr .h-indent-1em { text-indent: -1em; padding-left: 1em; }
.vrtl .h-indent-1em { text-indent: -1em; padding-top: 1em; }
-----
```

横組みのときに適用したい class の前には「.hltr」と半角スペースを、縦組みのときは「.vrtl」と半角スペースを、それぞれ追加してください。

【参考情報】※本ガイドでは非推奨項目

C. 縦組みと横組みで中身が変わる項目の、組み方向入れ子対策

縦組みと横組みが混在する場合、B の指定だけでは表示が崩れることがあります。

たとえば、横組みのページ内で縦組みのブロックを作成した場合、その中で上記のぶらさがりインデントを行うと、横組み用の左からのパディングと、縦組み用の上からのパディングが同時に適用されてしまいます。

この状態を解消するためには、横組み用の左からのパディングを削除しなければなりません。

以下は、横組みの中に縦組みが出てきたときに、左からのパディングをゼロにする指定と、縦組みの中に横組みが出てきたときに、上からのパディングをゼロにする指定です。

```
-----[sample code]-----
.hltr .vrtl .h-indent-1em { padding-left: 0; }
.vrtl .hltr .h-indent-1em { padding-top: 0; }
-----
```

ただしこの方法には欠点もあります。それは、インデント指定とは別に、左からのパディングを指定したい場合です。

このようなケースに対処するのは困難ですので、実際の利用では、以下のようにインデント指定とそれ以外のパディング指定は、同じ要素内で同時に指定しないようにするのが安全です。

```
-----[sample code]-----
<div class="p-top-2em">
<div class="h-indent-1em">
<p>テキスト</p>
</div>
</div>
-----
```

なお、以下のように記述すると、一見入れ子対策が不要のように思えますが、実際には、横組み中の縦組みでは大丈夫でも、縦組み中の横組みでは表示が崩れるという状態になります。

```
-----[sample code]-----
.hltr .h-indent-1em { text-indent: -1em; padding: 0 0 0 1em; }
.vrtl .h-indent-1em { text-indent: -1em; padding: 1em 0 0 0; }
-----
```

上下の行の記載順を入れ替えると、今度は横組み中の縦組みで表示が崩れるようになります。

これは、後から読み込んだスタイルのほうが優先されるという、CSS のルールが原因です。

同様の理由で、本ガイドのデフォルト CSS でも、組み方向の入れ子が2回になってしまうと表示が崩れてしまいます。

どうしても組み方向の混在を利用したい場合は、十分な検証を行ってください。

ぶら下がりにインデントのほか、字下げや字上げ、マージン・パディング・罫線などの論理方向 `class` や、傍線、リンク下線、画像のベースラインなど縦横で表示が切り替わる `class` で、こうした組み方向混在による問題が発生します。

■ カスタマイズ

`.book-style.css` には、いくつかの上書き用 `class` と、空の `class` があらかじめ用意されています。

たとえばリンクの線を消したい場合は、以下のように、上書き用 `class` を利用してください。

```
-----[sample code]-----
/* 基本設定（上：横組み 下：縦組み） */
.hltr a {
}
.vrtl a {
}
-----
```

↓

```
-----[sample code]-----
/* 基本設定（上：横組み 下：縦組み） */
.hltr a {
    text-decoration: none;
}
.vrtl a {
    text-decoration: none;
}
-----
```

※組み方向混在の対策をする場合は追記してください。

空の class を利用する際は、各自の責任において、対象とする RS での十分な検証を行ってください。
より多くの RS での表示を安全なものにしたい場合は、本ガイドで想定される範囲内での CSS プロパティ以外は用いず、また複雑すぎる指定はしないことを推奨します。

なお、下記のように book-style.css のカスタマイズ領域で書体や文字サイズ指定をした HTML 要素や class が指定された要素に、XHTML 上で他の書体指定や文字サイズ指定をしてもうまく反映されないことがあります。

```
-----[sample code]-----
.hltr .oo-midashi {
    font-size: 1.5em;
}
.vrtl .oo-midashi {
    font-size: 1.5em;
}
-----
```

```
<h1 class="oo-midashi font-100per">見出し</h1>    // 100% ではなく 150% で表示されます。
```

これは、CSS の優先順位によるものです。対処が困難な場合は、新たに class を作成するなどしてください。

■独自 CSS ファイルの作成

基本ルールとして、UTF-8（BOM 無し）で保存すること、またファイルの先頭に「@charset "UTF-8";」と必ず挿入することを推奨します。